

**新型コロナウイルスワクチンの長期的な副反応と
思われる症状で受診された方の症例集
(Case Collection of Nagoya) (第3報)**

名古屋市
一般社団法人 名古屋市医師会
公益社団法人 愛知県看護協会

目次

1	はじめに	1
2	名古屋市における長期的な副反応相談体制の概要	2
3	調査の概要	3
4	症例の概要	8
5	症例サマリー	14
6	症例の調査検討	17
7	おわりに	24
	【資料1】長期的な副反応相談窓口への相談実績	26
	【資料2】調査票・追跡調査票のサンプル	42
	【資料3】名古屋市のワクチン接種状況	48

<本症例集の中で取り扱う用語の定義>

・長期的な副反応

新型コロナウイルスワクチン接種後、おおむね2週間以上経過しても継続している症状

・協力医療機関

新型コロナウイルスワクチン接種後の長期的な副反応が疑われる症状がある方を、なごや新型コロナウイルスワクチン長期的な副反応相談窓口から案内することに同意のあった医療機関

・オミクロン株対応ワクチン

特別に言及しない限りはオミクロン株BA.1/BA.4-5対応2価ワクチンを指す。

令和5年3月27日 第1報

令和5年9月25日 第2報

令和6年3月25日 第3報

名古屋市新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの 長期的な副反応に関する治療状況調査・検討会

○趣旨

この検討会は新型コロナウイルスワクチンの長期的な副反応に関する相談後の治療状況調査を実施し、その結果を取りまとめるために設置された。名古屋市新型コロナウイルス感染症対策室がとりまとめ等の庶務を担い、各委員が執筆協力や助言をする形で運営されている。

○委員

委員名（敬称略）	所属・役職
竹中 基晃	一般社団法人 名古屋市医師会 理事
結城 房子	公益社団法人 愛知県看護協会 常務理事
松原 史朗	前・名古屋市 健康福祉局医監（保健所長）
小嶋 雅代	名古屋市 健康福祉局医監（保健所長）

・類似の名称の委員会に「名古屋市予防接種健康被害調査委員会」がある。この委員会は予防接種に起因すると考えられる健康被害が発生した際、当該事例について医学的見地から調査・審議を行うもので、本市が健康被害救済給付請求を国に進達する際の審議を主に実施している。長期的な副反応に関する治療状況調査・検討会と目的は異なるが、対象の案件がそれぞれの目的に従って双方に付議される可能性はある。

1 はじめに

この度、新型コロナウイルスワクチンの長期的な副反応と思われる症状で受診された方の症例集（Case Collection of Nagoya）第3報を発刊する運びとなりました。相談窓口を担当していただいた愛知県看護協会、診療・調査に協力いただいた名古屋市医師会の協力医療機関、とりまとめをしていただいた名古屋市健康福祉局の皆様がこの場をお借りして感謝申し上げます。

さて、令和5年10月、新型コロナウイルスワクチンの基本構造であるmRNAワクチンの基礎を築いた科学者がノーベル賞を受賞しました。科学技術の進歩は大変喜ばしく、これからも続く人類と感染症の戦い、新興感染症と科学技術の戦いにも活かされていくと期待しています。しかし、今回のコロナ禍ではワクチンが大きな役割を果たした一方で、新型コロナウイルスワクチンは比較的副反応が多く、長期的な副反応などについては未知の部分が残されているように思います。新技術については、光と影の両面を様々な視点で検証することが必要だと考えます。

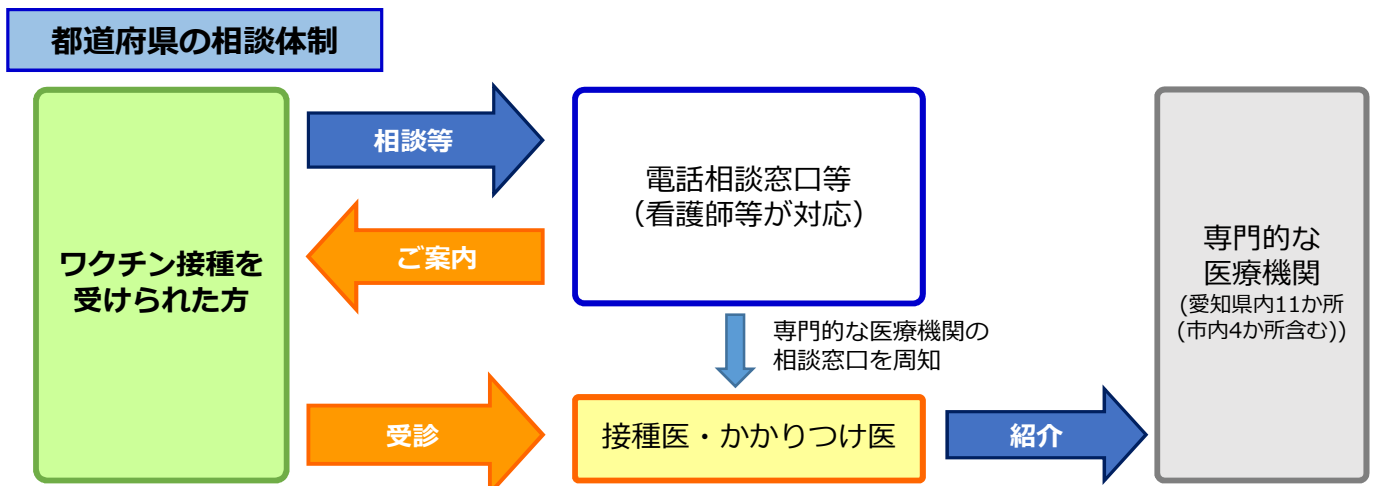
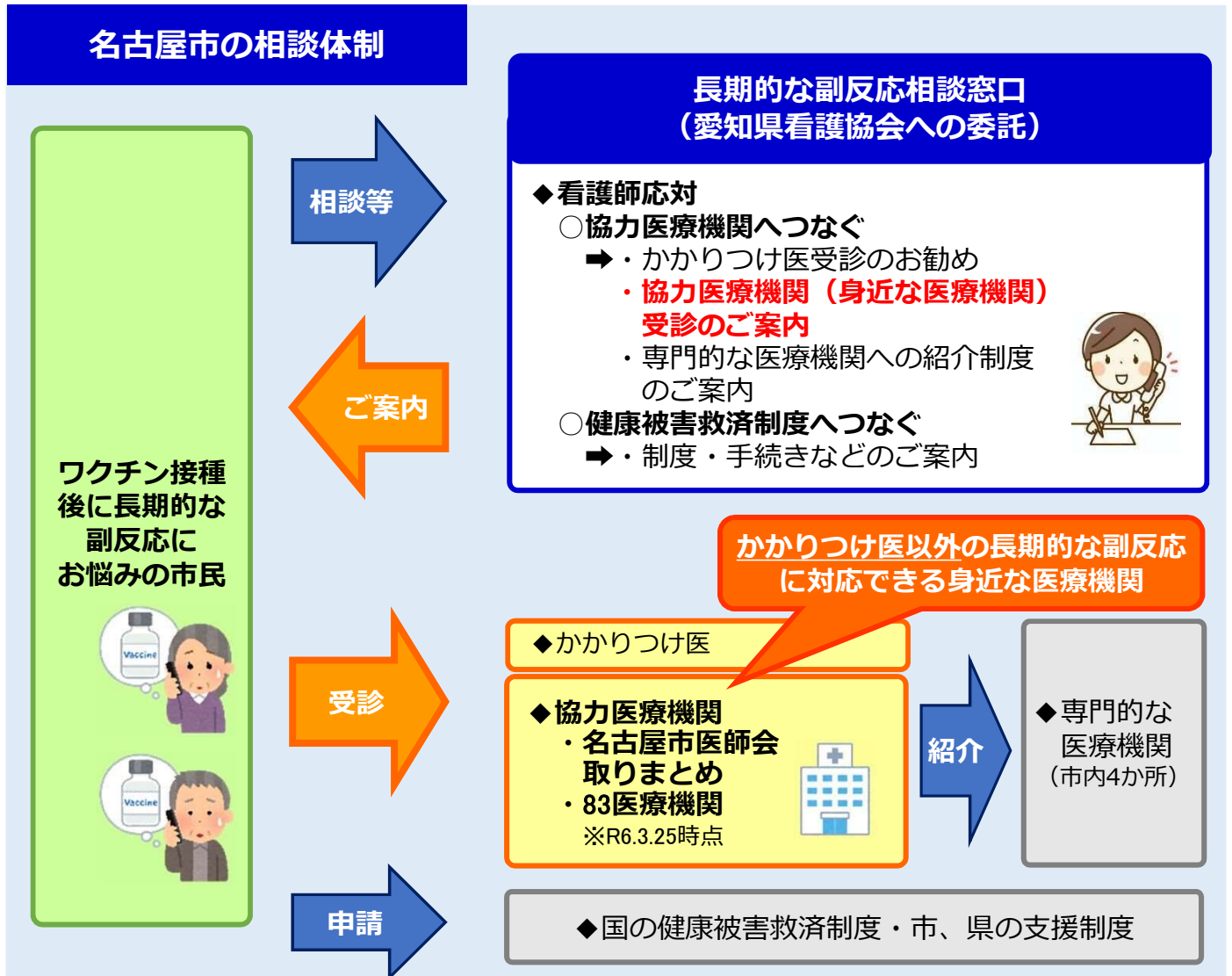
名古屋市では長期的な副反応と思われる症状でお悩みの方のために、他の自治体に先駆け、令和4年3月から「なごや新型コロナウイルスワクチン長期的な副反応相談窓口」を開設されました。また、一人ひとりの声を傾聴し、協力医療機関を案内することで、相談や受診がしやすい体制を作ってられました。

当調査・検討会では、これら協力医療機関から症例を集め、その概要を分析・公表して情報共有を図ってまいりました。第3報となる今回の症例集では、さらに調査期間を延ばし、症例、臨床の経過、治療の状況を追加しています。この症例集が長期的な副反応と思われる症状でお悩みの皆様や、診療にあたっておられる医療機関の皆様の参考になりましたら、誠に幸いに思います。

名古屋市医師会 理事
竹中 基晃

2 名古屋市における長期的な副反応相談体制の概要

新型コロナウイルスワクチン接種後の長期的な副反応と思われる症状で悩む市民に対して、令和4年3月25日に専用の電話相談窓口を開設し、協力医療機関や予防接種健康被害救済制度を案内している。（相談実績の詳細は資料1を参照）



3 調査の概要

(1) 調査の経緯

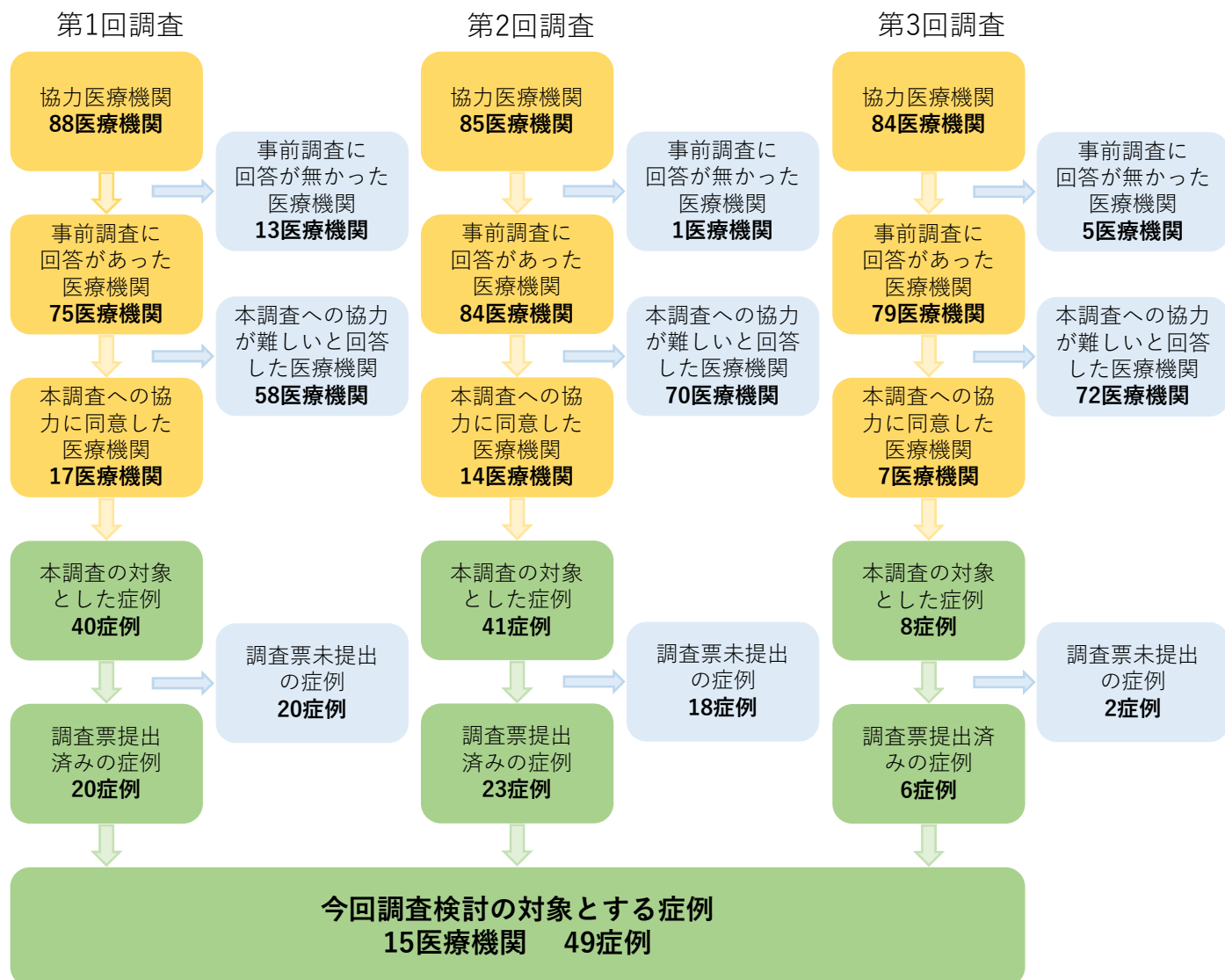
第1回調査においては、長期的な副反応相談窓口が開設された令和4年3月25日から6月30日までを対象とし、20症例を収集し、分析した。令和5年3月27日にはその内容を症例集の第1報として公表し、4月20日に河村たかし市長が本田顕子厚生労働大臣政務官に提出した。

第2回調査においては、令和4年7月1日から令和5年3月31日を対象とし23症例を、第3回調査においては、令和5年4月1日から9月30日を対象とし、新たに6症例を収集・分析した。

さらに、第1報・第2報で収集した症例の一部については追跡調査も行った。

本症例集（第3報）は、上記の全3回の調査で得られた49症例を分析し、その結果を取りまとめたものである。

(2) 調査の流れ



(3) 事前調査

本調査の前に調査方法や対象等について検討するため、長期的な副反応と思われる症状で受診した患者数や現状などについて協力医療機関にアンケート調査を実施した。

表1 事前調査における協力医療機関への患者の受診状況

区分	第1回	第2回	第3回
調査対象期間	令和4年3月25日～ 令和4年6月30日	令和4年7月1日～ 令和5年3月31日	令和5年4月1日～ 令和5年9月30日
対象医療機関	88	85	84
回答数（回答率）	75（85.2%）	84（98.8%）	79（94.0%）
実際に患者が受診した医療機関	47	30	12
うち「相談窓口から案内を受けた」と確認できた患者が受診した医療機関	29	11	7

表2 事前調査における患者数とその現状

		第1回	第2回	第3回	計
調査対象期間		令和4年3月25日 ～ 令和4年6月30日	令和4年7月1日 ～ 令和5年3月31日	令和5年4月1日 ～ 令和5年9月30日	令和4年3月25日 ～ 令和5年9月30日
長期的な副反応を訴える患者 (回答率)		173 (100%)	131 (100%)	38 (100%)	342 (100%)
患者の 現状	治療が継続している	29 (16.8%)	5 (3.8%)	5 (13.2%)	39 (11.4%)
	治療が終了した (治癒した)	30 (17.3%)	62 (47.3%)	13 (34.2%)	105 (30.7%)
	県が設置している 専門医療機関を紹介	38 (22.0%)	20 (15.3%)	9 (23.7%)	67 (19.6%)
	他の医療機関を紹介	16 (9.2%)	22 (16.8%)	6 (15.8%)	44 (12.9%)
	治療中だが 来院しなくなった	29 (16.8%)	11 (8.4%)	1 (2.6%)	41 (12.0%)
	その他	8 (4.6%)	4 (3.1%)	4 (10.5%)	16 (4.7%)
	無回答	23 (13.3%)	7 (5.3%)	0 (0%)	30 (8.8%)

※端数処理の関係で、内訳の合計が100%にならないことがある。

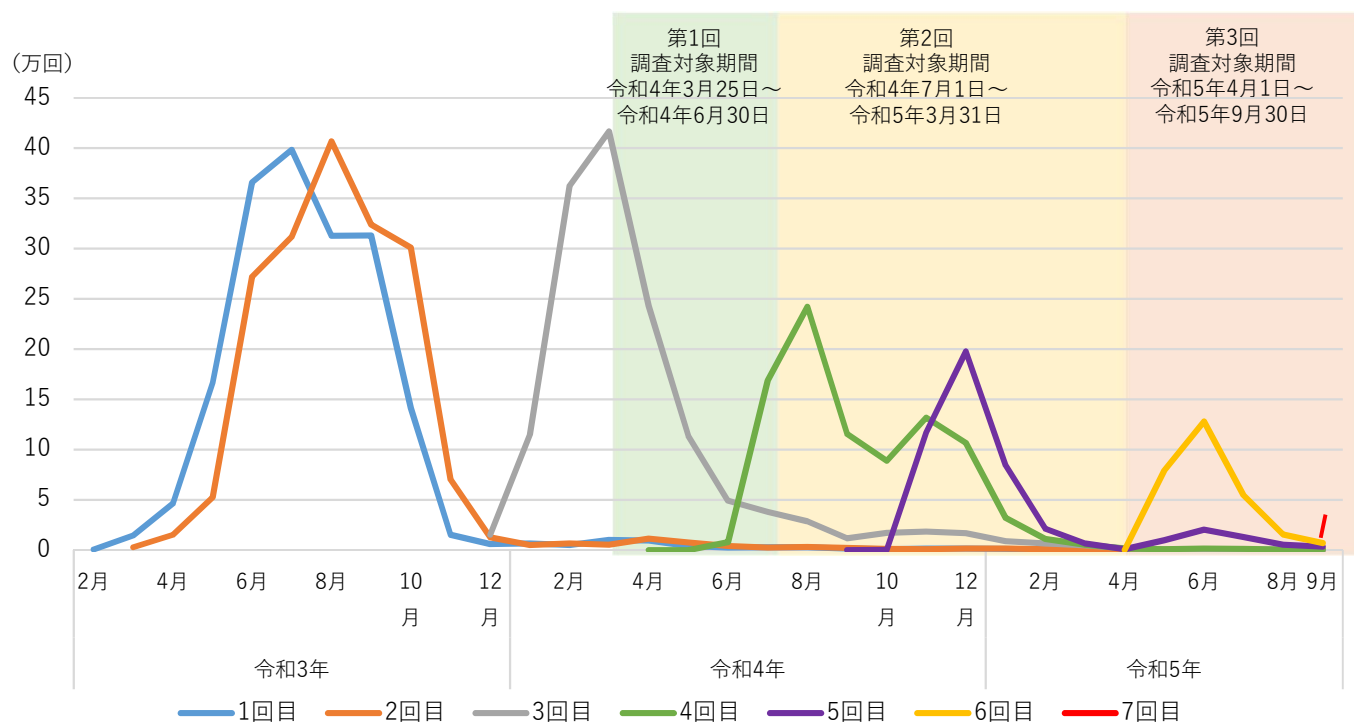
(4) 本調査

事前調査において、「調査に協力する」と回答した協力医療機関に個別の症例に関する調査票*1の提出を依頼した。

表3 本調査の対象となる症例数

区分	第1回	第2回	第3回	全体
調査対象期間*2	令和4年3月25日 ～ 令和4年6月30日	令和4年7月1日 ～ 令和5年3月31日	令和5年4月1日 ～ 令和5年9月30日	令和4年3月25日 ～ 令和5年9月30日
対象医療機関	17	14	7	27 *4
回答した医療機関（回答率）	9 (52.9%)	7 (50.0%)	3 (42.9%)	15 *4
本調査の対象とした症例*3	40	41	8	89
調査票が提出された症例（回答率）	20 (50.0%)	23 (56.1%)	6 (75.0%)	49 (55.1%)

本市におけるワクチン接種回数の月別推移



本市の新型コロナウイルスワクチン接種は令和3年2月から初回接種（1回目、2回目）が始まり、以後、3回目、4回目、5回目などの追加接種が順次実施されてきた。一方、調査は令和4年3月25日以降に協力医療機関を受診した患者を対象としている。したがって、本市のワクチン接種者全体と比べて、対象者に接種回数や受診医療機関等に偏りがあることに留意する必要がある。

(5) 追跡調査

第1回調査で情報が得られた症例のうち、「現在も通院中」「中断」に分類された7症例に対して「第1回追跡調査」を第2回調査と同時に行った。その後、第1回調査と第2回調査で情報が得られた症例のうち、通院中、中断に分類された8症例に対して、「第2回追跡調査」を第3回調査と同時に行った。いずれも調査方法は、対象者の治療を行った医療機関に追跡調査票*1を送付し、回答を得た。

表4 追跡調査の対象となる症例

区分	第1回追跡調査	第2回追跡調査
対象医療機関	5	6
回答した医療機関（回答率）	5（100%）	3（50.0%）
追跡調査の対象とした症例	7	8
調査票が提出された症例（回答率）	7（100%）	3（37.5%）

*1 第3回調査および第2回追跡調査に使用した調査票を資料2として添付した。

*2 医療機関より調査票の提供があった場合は、対象期間以外の症例についても、調査検討の対象とした。

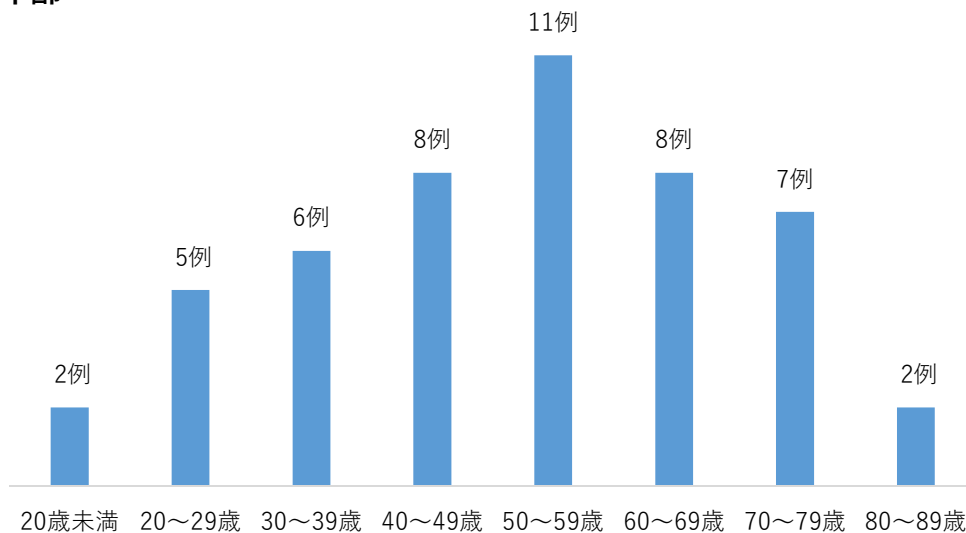
*3 医療機関の了承が得られた症例を調査検討の対象とし、調査票の提出を依頼した。

*4 第1回調査、第2回調査と第3回調査で医療機関の重複あり。

4 症例の概要

第1回調査で得られた20症例、第2回調査で得られた23症例、第3回調査で得られた6症例、合計49症例を対象として分析した。（第2報公表時から一部数値に訂正あり）

(1) 年齢

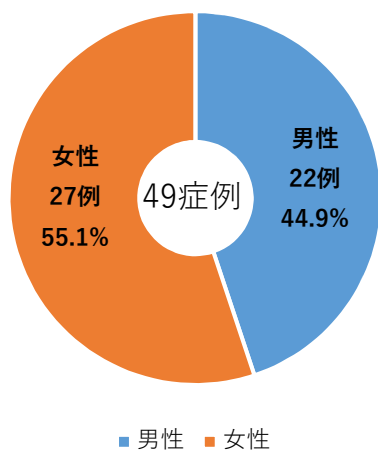


最年少：14歳 最年長：82歳

傾向：幅広い年代にわたって報告がある。分布は年代別総接種回数の分布とおおむね類似している。

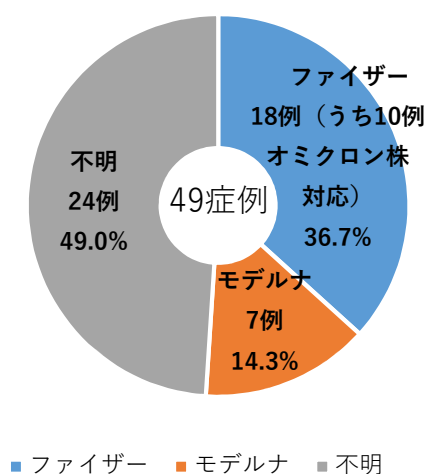
(P48 資料3 (1) 年代別総接種回数参照)

(2) 男女比



傾向：やや女性が多い。
(P49 資料3 (2) 男女比参照)

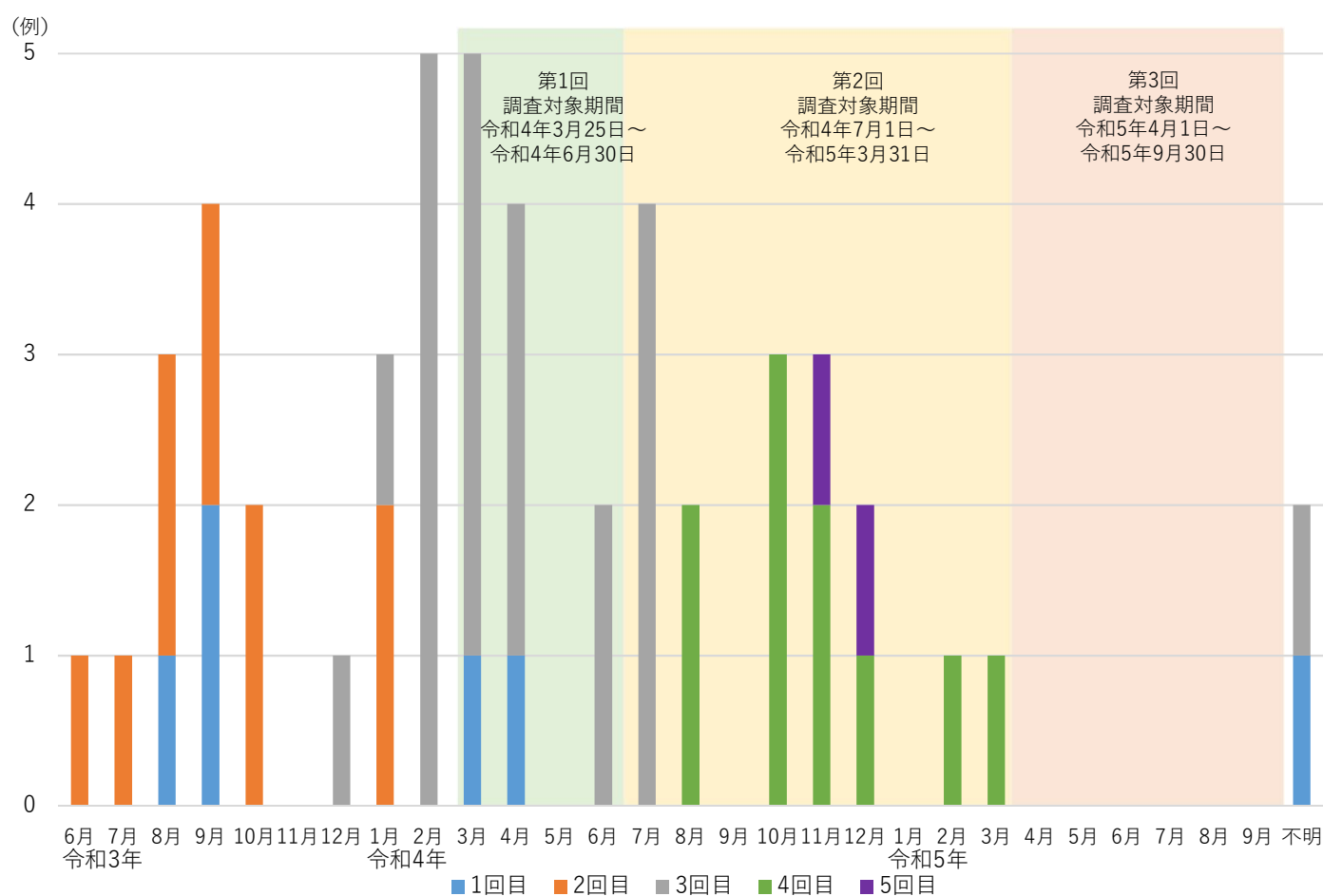
(3) 接種ワクチンの種別



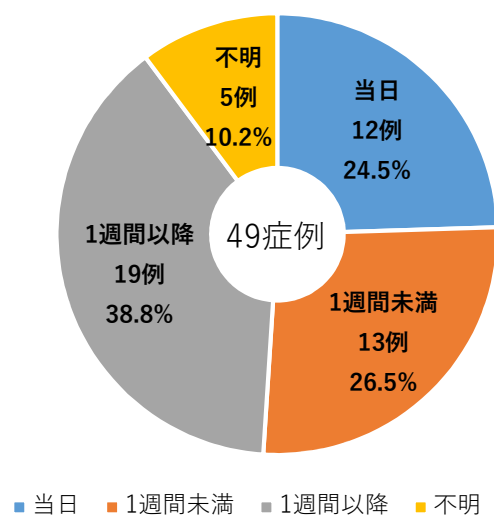
傾向：ファイザー社ワクチン接種後の症例がモデルナ社ワクチン接種後の症例より多い。また、接種したワクチンの種別が不明な症例も多い。

(P50 資料3 (3) ワクチン種別参照)

(4) ワクチンの接種時期と回数



(5) 接種から発症までの期間

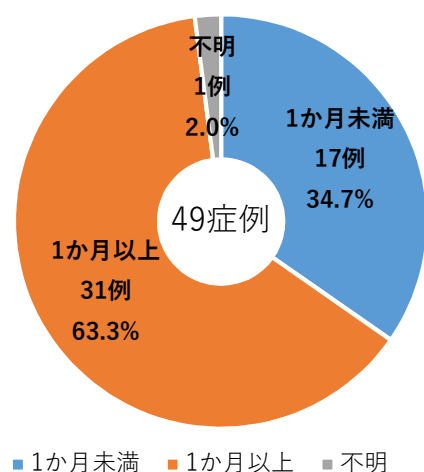


最短：当日

最長：約6か月

傾向：約半数が接種から1週間未満で発症している。

(6) 発症から受診までの期間

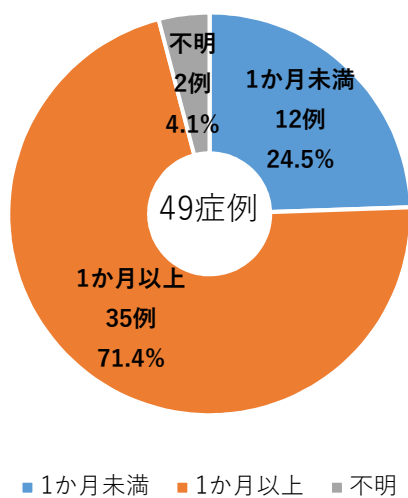


最短：1日

最長：約15か月

傾向：約3分の2が発症から受診まで1か月以上かかっている。

(7) 接種から受診までの期間

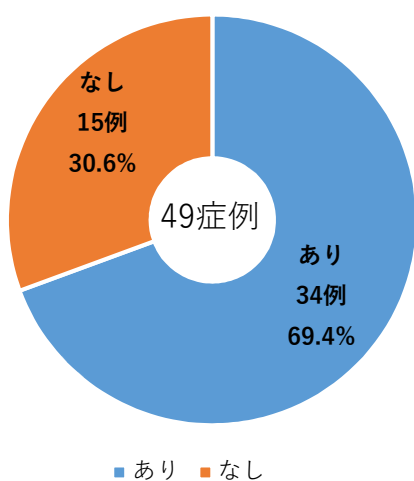


最短：3日

最長：約19か月

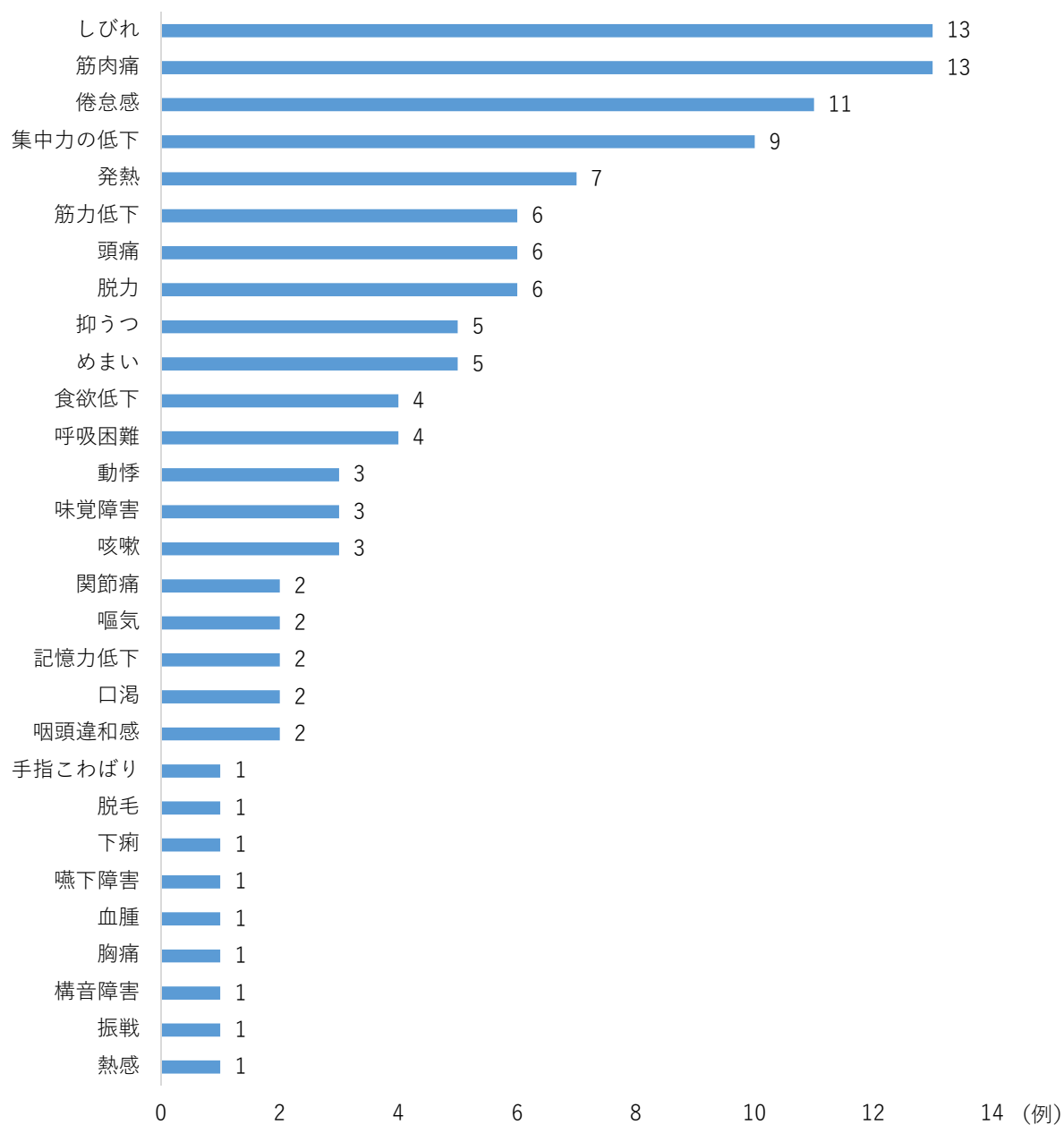
傾向：約4分の3が接種から受診まで1か月以上かかっている。

(8) 基礎疾患・既往歴



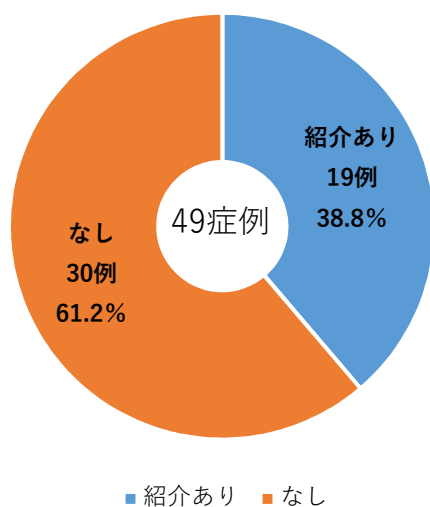
傾向：約3分の2に基礎疾患・既往歴があり、糖尿病、精神疾患、慢性の心臓病、高血圧、脂質異常症など（重複あり）が多くみられる。

(9) 主な症状



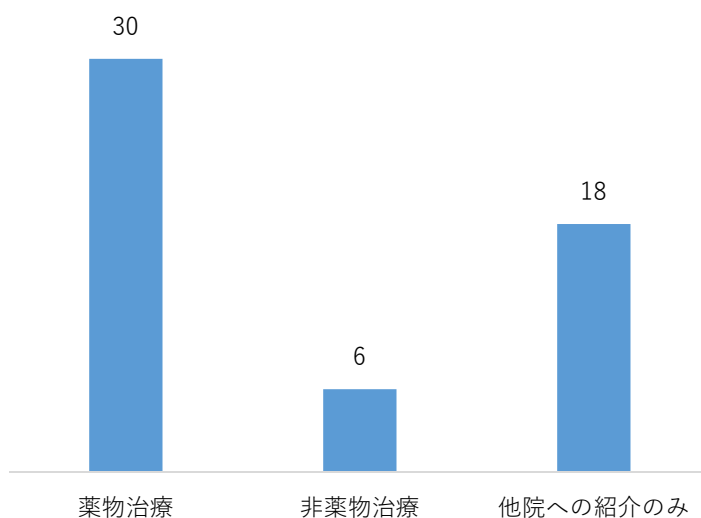
※複数の訴えがあるため、重複あり

(10) 専門的な医療機関への紹介の有無



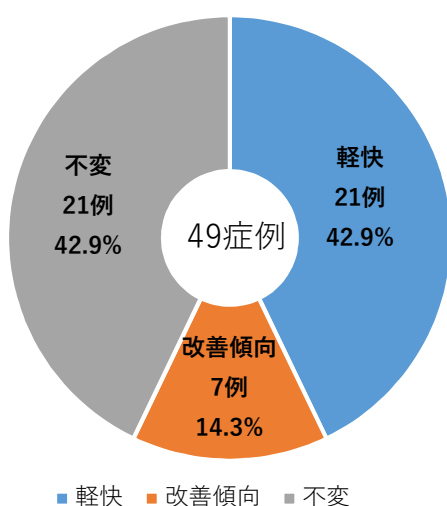
傾向：診察後、専門的な医療機関への紹介が必要となった症例が4割みられる。

(11) 治療概要

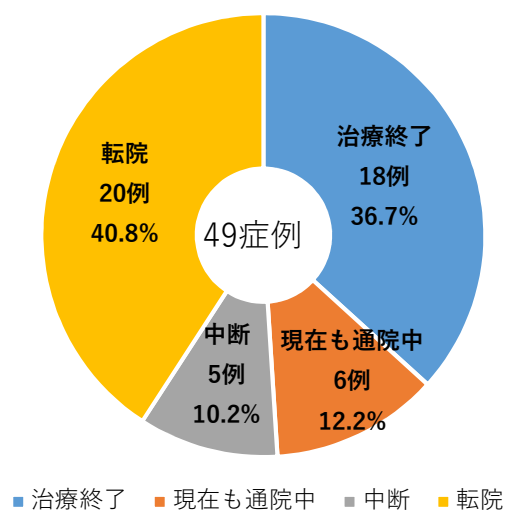


傾向：薬物治療が中心になっている。
※複合治療症例があるため、重複あり

(12) 症状の経過（転帰）



(13) 現在（調査時点）の通院状況



※本症例集においては以下のように定義する
 軽 快：明らかに症状が改善した状態
 改善傾向：初診時と比較して症状は改善しているものの、まだ不調が残存している状態
 不 変：初診時から症状の変化が見られない状態

※端数処理の関係で、内訳の合計が100%にならないことがある。

5 症例サマリー

症例1～20は第1回調査、症例21～43は第2回調査、症例44～49は第3回調査で新たに回答を得られたもの。なお、第1回追跡調査で回答を得られたものに★をつけ、内容を青字で、第2回追跡調査で回答を得られたものに★をつけ、内容を赤字で示す。

症例	性別	年代	ワクチン	接種回数	基礎疾患・既往歴	主な症状	治療法	転帰 通院状況
1	女	60	従来	2	高コレステロール血症	しびれ	専門的な医療機関を紹介（総合内科）	改善傾向 転院
2★	男	50	従来	3	慢性硬膜下血腫	倦怠感、めまい、 集中力の低下	薬物治療（人參養榮湯、補中益気湯） ⇒追跡時、薬物治療（人參養榮湯、補中益気湯）	改善傾向 通院中
3★	女	20	従来	3	—	微熱、倦怠感、抑うつ	薬物治療（大柴胡湯、ロフラゼブ酸エチル） ⇒追跡時、薬物治療（人參養榮湯、補中益気湯）	軽快 治療終了
4	男	50	従来	2	高血圧症、脂質代謝異常、陳旧性心筋梗塞	関節痛、左上腕の痛み、 左上肢挙上困難	薬物治療（アセトアミノフェン）、専門的な医療機関を紹介（総合内科）	不変 転院
5	女	60	従来	3	糖尿病、高血圧症、 心臓病、肥満	味覚障害、左顔面しびれ、 嚥下障害	薬物治療（人參養榮湯、ポラプレジック）、B-spot療法、食事と運動等指導	不変 中断
6	女	50	従来	3	子宮筋腫	味覚障害、咽頭違和感、 口渇	薬物治療（人參養榮湯、ポラプレジック、トラネキサム酸）、B-spot療法	軽快 治療終了
7	女	80	従来	2	慢性的心臓病、 高血圧症	めまい	薬物治療（ベタヒスチン、メコバラミン、アデノシン三リン酸、人參養榮湯）、非薬物療法（運動療法）	軽快 治療終了
8	女	40	従来	3	高血圧症	味覚障害	薬物治療（ポラプレジック、デキサメタゾン口腔軟膏）	軽快 治療終了
9★	女	40	従来	3	子宮筋腫、EBウイルス 感染後急性肝炎	しびれ、発熱、手足違和感、 手指こわばり ⇒追跡時、しびれ	経過観察、非薬物療法（リハビリテーション）⇒追跡時、薬物治療（メコバラミン）	改善傾向 中断 中断
10	女	40	従来	2	喘息、心療内科通院中	頭痛、めまい、右手のしびれと 痛み、後頭部圧迫感	薬物治療（トフィンパム、セルトラリン）、主治医（心療内科）へ引継ぎ	改善傾向 転院
11★	男	20	従来	3	不安抑うつ混合性障害	集中力の低下、抑うつ、 緊張感、不安感、動悸、 早朝覚醒 ⇒追跡時、倦怠感	薬物治療（アルプラゾラム、ドスレピン、レンボレキサント、加味帰脾湯、クロチアゼパム頓服） ⇒追跡時、薬物治療（アルプラゾラム、ラフチジン、ドスレピン、加味帰脾湯、ドチヌラド、レンボレキサント、人參養榮湯） ⇒追跡時、薬物治療（オキサゾラム、ドスレピン、ラフチジン、人參養榮湯、ボルチオキセチン臭化水素酸塩酸）	軽快 通院中
12★	男	10	従来	1	うつ状態	頭痛、集中力の低下、 抑うつ、咽喉頭異常感 ⇒追跡時、抑うつ、 咽喉頭異常感	薬物治療（オキサゾラム、エシタロプラム、ペマフィプラート、ドチヌラド）⇒追跡時、薬物治療（エシタロプラム、人參養榮湯）	軽快 中断

症例	性別	年代	ワクチン	接種回数	基礎疾患・既往歴	主な症状	治療法	転帰 通院状況
13	女	50	従来	1	—	呼吸困難、胸痛、頭痛、発熱、食欲不振、体重減少	経過観察、専門的な医療機関を紹介（呼吸器科、循環器科）、点滴	不変 転院
14	男	30	従来	3	—	呼吸困難、関節痛、筋肉痛、倦怠感、脱力、しびれ、発熱、記憶力低下	経過観察、専門的な医療機関にて検査異常なし、他院（耳鼻科）で処置と内服あり	不変 転院
15★	女	20	従来	3	—	呼吸困難、筋肉痛、頭痛、下痢、倦怠感、脱力、しびれ、発熱、抑うつ、嘔気、手足の筋力低下、食欲低下 ⇒追跡時、筋肉痛、嘔気、食欲低下、筋力低下	経過観察、薬物治療（補中益気湯、メコバラミン） ⇒追跡時、経過観察	不変 治療終了
16	男	10	従来	2	—	手足のしびれ	経過観察、専門的な医療機関を紹介（痛み外来）、鍼灸院を紹介	不変 転院
17★	男	60	従来	3	高尿酸血症、脂質異常症、不眠症	倦怠感	薬物治療（紫胡加竜骨牡蛎湯）、非薬物療法（心理カウンセリング）	軽快 治療終了
18	男	70	従来	3	糖尿病、高血圧症、右黄斑変性症、胆石症、胆のう摘出後	筋肉痛、肩関節可動域制限	薬物治療（紫胡加竜骨牡蛎湯）、専門的な医療機関を紹介（整形外科）	不変 転院
19	女	30	従来	2	アトピー性皮膚炎	脱毛	専門的な医療機関を紹介（皮膚科）、他院でレーザー治療	不変 転院
20	女	40	従来	2	橋本病の疑い	筋肉痛、倦怠感、嘔気、食欲不振、体重減少	専門的な医療機関を紹介（リウマチ内科、消化器内科）	不変 転院
21	女	30	オミクロン	4	—	動悸、筋肉痛、息切れ	薬物治療（セレコキシブ、レバミピド、フルビプロフェンテープ）	不変 中断
22	男	40	従来	3	潰瘍性大腸炎	筋肉痛、筋力低下、肩が上がらない	薬物治療（ロキソプロフェン、クロルフェネシン、レバミピド、フルビプロフェンテープ）、非薬物療法（理学療法）	軽快 治療終了
23	男	50	オミクロン	4	胃潰瘍	筋肉痛	薬物治療（ベタメタゾン懸濁注、ジブカイン塩酸塩・サリチル酸ナトリウム・臭化カルシウム注射）	軽快 治療終了
24	女	50	従来	3	胃癌術後、子宮頸癌術後、骨粗鬆症	筋肉痛	薬物治療（セレコキシブ、レバミピド）	軽快 治療終了
25	男	60	オミクロン	4	慢性の肝臓病	血腫	薬物治療（ロキソプロフェン、レバミピド）	軽快 治療終了
26	女	60	従来	4	—	筋肉痛	薬物治療（ベタメタゾン懸濁注、ジブカイン塩酸塩・サリチル酸ナトリウム・臭化カルシウム注射）	軽快 治療終了
27	男	60	従来	2	慢性の心臓病	筋肉痛、筋肉がつる	薬物治療（ベタメタゾン懸濁注、ジブカイン塩酸塩・サリチル酸ナトリウム・臭化カルシウム注射、クロルフェネシン、セレコキシブ、レバミピド）	軽快 治療終了
28	女	70	従来	3	慢性の心臓病、糖尿病	筋肉痛	薬物治療（ベタメタゾン懸濁注、ジブカイン塩酸塩・サリチル酸ナトリウム・臭化カルシウム注射）	軽快 治療終了
29	男	40	オミクロン	4	うつ	口の渇き	薬物治療（人參養榮湯、ポラプレジック）、その他（B-spot療法）	軽快 治療終了

症例	性別	年代	ワクチン	接種回数	基礎疾患・既往歴	主な症状	治療法	転帰 通院状況
30	男	20	従来	3	—	集中力の低下、倦怠感	専門的な医療機関を紹介	不変 転院
31	女	70	従来	3	慢性の呼吸器疾患	動悸、集中力の低下、しびれ	専門的な医療機関を紹介	不変 転院
32	女	70	オミクロン	4	子宮内膜症、糖尿病、慢性の心臓病（高血圧を含む）	集中力の低下、頭痛、脱力	専門的な医療機関を紹介	不変 転院
33	男	30	従来	3	不安障害	しびれ、倦怠感、微熱、集中力の低下、記憶力低下	専門的な医療機関を紹介	改善傾向 転院
34	女	50	従来	3	高脂血症	脱力、筋力低下、しびれ	専門的な医療機関を紹介、左足不随意運動と診断され、精密検査中	不変 転院
35	女	30	従来	1	—	頭痛、顎疼痛	専門的な医療機関を紹介（脳神経内科）、精密検査中	不変 転院
36	女	30	従来	3	けいれん性発声障害、アトピー性皮膚炎	咳嗽、脱力	専門的な医療機関を紹介	不変 転院
37	女	70	従来	4	—	脱力、呼吸困難	専門的な医療機関を紹介	軽快 転院
38	男	70	従来	2	—	食欲低下	その他の医療機関を紹介	不変 転院
39	女	20	従来	1	—	咳嗽、抑うつ、倦怠感	薬物治療（ロフラゼブ酸エチル、漢方薬）	軽快 治療終了
40	女	40	従来	1	—	咳嗽、めまい、集中力の低下	薬物治療（人參養栄湯、補中益気湯）	軽快 治療終了
41	男	50	従来	1	慢性硬膜下血腫	集中力の低下、倦怠感	薬物治療（漢方薬）	不変 通院中
42	男	80	従来	3	慢性の心臓病（高血圧を含む）、糖尿病、脳梗塞、脳出血	筋力低下、左手のしこり	かかりつけ医（整形外科）へ引継ぎ	不変 中断
43	女	70	従来	3	—	倦怠感、筋力低下	薬物治療（人參養栄湯）	軽快 治療終了
44	男	50	オミクロン	4	慢性の心臓病（高血圧を含む）	熱感、筋肉痛	専門的な医療機関を紹介受診後に、薬物治療（セレコキシブ、レバミピド、ベタメタゾン懸濁注、ジブカイン塩酸塩・サリチル酸ナトリウム・臭化カルシウム注射）	軽快 通院中
45	男	60	オミクロン	5	てんかん、白内障、平山病（若年性一側上肢筋萎縮症）	しびれ、筋肉痛	薬物治療（セレコキシブ、レバミピド、ベタメタゾン懸濁注、ジブカイン塩酸塩・サリチル酸ナトリウム・臭化カルシウム注射）	軽快 治療終了
46	男	40	従来	2	慢性の心臓病（高血圧を含む）、蕁麻疹、統合失調症	しびれ（頭部、腹部、両大腿）、発熱	専門的な医療機関を紹介	不変 転院
47	女	50	オミクロン	5	うつ病、てんかん、不安神経症	めまい	非薬物療法（カウンセリング） 専門的な医療機関の受診を促す	不変 通院中
48	女	50	オミクロン	4	関節リウマチ	しびれ、振戦、耳と顔の痛み	薬物治療（デュロキセチン、アロチノロール塩酸塩）	改善傾向 通院中
49	男	60	オミクロン	4	—	筋力低下、構音障害	専門的な医療機関を紹介	改善傾向 転院

6 症例の調査検討

(1) 全体の傾向

最も多い症状はしびれ、筋肉痛（13例）であり、次いで倦怠感、集中力の低下、発熱、筋力低下、頭痛、脱力などが多くみられた。そのほか、抑うつ、めまいなど、様々な症状がみられた。

治療は薬物治療が主であり、内科的症状に対しては漢方薬を中心に投与される例が多く、運動器症状に対しては消炎鎮痛剤の投与が多くみられた。

(2) 主な症状別の傾向と選択された治療法

しびれ 13例（症例 1,5,9,10,14,15,16,31,33,34,45,46,48）

- ・漢方薬（補中益気湯、人參養栄湯）、ビタミンB12等が投与された例が多かった。
- ・患者側で治療を中断する例もみられた。
- ・改善傾向は5例（症例 1,9,10,33,48）みられた。
- ・6例（症例 14,16,31,33,34,46）は専門的な医療機関へ転院となった。

筋肉痛 13例（症例 14,15,18,20,21,22,23,24,26,27,28,44,45）

- ・ワクチン接種当日～1週間未満の期間に症状が出現する例が6例（症例 14,22,23,24,26,27）あった。
- ・2例（症例 14,18）は筋肉痛と共に関節痛が出現していた。うち1例（症例 18）は、鎮痛剤と柴胡加竜骨牡蛎湯を使用するが改善傾向みられず、専門的な医療機関へ転院となり、左肩関節拘縮の疑いで精査予定となった。
- ・9例（症例 21,22,23,24,26,27,28,44,45）は同一の整形外科から調査票が提出されており、そのうちエコー下で接種部位に炎症が確認できた6例（症例 23,26,27,28,44,45）は、同部位にステロイドと局所麻酔薬を注入し、軽快した。また、1例（症例 22）は消炎鎮痛剤の投与と理学療法の併用、もう1例（症例 24）は消炎鎮痛剤の投与のみで改善がみられた。

倦怠感 11例（症例 2,3,11,14,17,20,30,33,39,41,43）

- ・比較的若い世代での訴えが多く、3例（症例 3,11,39）は抑うつを伴っていた。
- ・倦怠感を訴える例には漢方薬（人參養栄湯、補中益気湯、大柴胡湯、加味帰脾湯、柴胡加竜骨牡蛎湯等）の投与が行われることが多かった。（症例 2,3,11,17,39,41,43）
- ・軽快した4例中、2例（症例 3,39）は精神安定剤と漢方薬（大柴胡湯等）が、2例（症例 17,43）は漢方薬のみ（人參養栄湯、柴胡加竜骨牡蛎湯）が投与されていた。
- ・1例（症例 14）は、症状出現から1か月経過しても労作時の倦怠感、記憶力の低下が続き、専門的な医療機関へ転院となった。

集中力の低下 9例（症例 2,11,12,30,31,32,33,40,41）

- ・全例で集中力の低下だけでなく倦怠感、抑うつ、動悸、しびれなど様々な症状を併発していた。
- ・2例（症例 11,12）は既往に精神疾患があった。抗うつ薬、抗不安薬、漢方薬（加味帰脾湯、人參養栄湯）を投与され、症状は軽快した。
- ・3例は倦怠感やめまいを併発しており、漢方薬（人參養栄湯、補中益気湯等）を投与された。1例（症例 40）は軽快し、2例（症例 2,41）は現在も薬物治療を継続している。
- ・4例（症例 30,31,32,33）は、専門的な医療機関へ転院となった。

頭痛 6例（症例 10,12,13,15,32,35）

- ・接種した翌日頃より症状が出現する例が多くみられた。
- ・3例（症例 13,32,35）は、専門的な医療機関へ転院となった。
- ・2例は既往歴に精神疾患があった。そのうち1例（症例 10）はワクチン接種前から自律神経調整剤、睡眠薬を内服しており、それらの薬剤を調整をすることで症状が改善した。また、もう1例（症例 12）は頭痛以外に倦怠感や抑うつ、咽喉頭異常感の症状があり、抗うつ薬、抗不安薬を投与された。追跡調査の結果、8か月経過して頭痛は残ってはいるものの、全身倦怠感、咽喉頭異常感は軽快していた。

筋力低下 6例（症例 15,22,34,42,43,49）

- ・軽快となった2例のうち、1例（症例 22）は消炎鎮痛剤の投与と理学療法にて軽快、もう1例（症例 43）は漢方薬（人參養栄湯）投与にて軽快した。
- ・1例（症例 42）は、8か月以上症状が継続しているため専門的な医療機関の受診を勧奨された。
- ・1例（症例 15）は、20歳代で手足の力が入らず、歩行障害、意識消失、嘔気、呼吸困難等様々な症状も見られ、専門医から体位性頻脈症候群と診断された。補中益気湯とビタミンB12を投与され、6か月後には手足のしびれや脱力感は改善傾向となったが、そのほかの症状は不変であった。
- ・1例（症例 49）は、構音障害も伴っており、専門的な医療機関で脳梗塞と診断され治療を開始、改善傾向となった。

めまい 5例（症例 2,7,10,40,47）

- ・3例は抗めまい剤、ビタミンB12、漢方薬（人參養栄湯、補中益気湯）を投与された。うち2例（症例 7,40）は軽快となり、1例（症例 2）は1年以上投与され改善傾向である。
- ・1例（症例 10）は既往に精神疾患あり、自律神経調整剤の投与にて改善傾向となった。

食欲低下 4例（症例 13,15,20,38）

- ・ 1例（症例 20）は、背部痛、嘔気、嘔吐の症状もみられた。心身症も考えられ、心療内科と専門的な医療機関へ転院となった。
- ・ 1例（症例 38）は、高齢であり、内分泌学的検査、上部消化管検査で異常なく、地域包括ケア病棟に転院となった。

呼吸困難 4例（症例 13,14,15,37）

- ・ 発熱、しびれなど幅広い症状を併発する例が多かった。
- ・ 3例は経過観察がなされ、うち2例（症例 13,14）は専門的な医療機関に転院された。1例（症例 15）には漢方薬（補中益気湯）とビタミンB12が投与されており、追跡調査では呼吸困難の症状がみられなくなったことが確認できた。
- ・ 1例（症例 37）は、ギランバレー症候群疑いで専門的な医療機関に入院し、軽快退院した。

(3) 追跡調査

第1回追跡調査

- ・ 7例中4例（症例 3,11,12,17）が軽快し、2例（症例 2,9）は第1回調査時点から引き続き改善傾向であった。軽快したうちの2例（症例 3,17）は治療も終了した。また、2例（症例 11,12）はもともと精神症状で通院中であり、症状は軽快したものの、薬物治療を継続中である。
- ・ 1例（症例 15）は第1回調査時点で症状の改善がみられず、通院を続けていたが、第2回調査時点では一部の症状のみの改善で治療終了となった。

第2回追跡調査

- ・ 第2回調査時点で中断の1例（症例9）は中断のままであった。
- ・ 第2回調査時点で通院中の2例のうち、1例（症例11）は内服通院中だが、投与量は減り改善傾向である。1例（症例12）はその後の受診はなく、中断となった。

(4) 考察

- 第1回調査、第2回調査と比較し、第3回調査の対象期間における相談窓口への相談件数や事前調査における長期的な副反応を訴える患者数は大幅に減少しており、それに伴い新規に得られた症例も減少した。
- 今回の分析（第1回、第2回と第3回調査を合わせた対象）で、以下のような傾向が見られた。
 - ・ ワクチン接種後のしびれや筋肉痛、倦怠感、発熱、頭痛、精神・神経症状など、幅広い症状が報告された。全身倦怠感は若い世代で多く、運動器症状や耳鼻科症状は比較的高い年代層でもみられた。約半数が接種から1週間未満で発症している一方、約3分の2が発症から受診まで1か月以上かかっていた。また約3分の2に基礎疾患・既往歴があった。
 - ・ 症状の経過を見ると、追跡調査の結果を含め、軽快が21例（42.9%）、改善傾向が7例（14.3%）と過半数が快方に向かっていた。不変は21例あったが、そのうち15例は転院しており、より専門的な医療機関による治療を受けたものと考ええる。
 - ・ 今回の報告症例では、新型コロナウイルスワクチン接種後に生じた多様な症状に合わせ、薬物治療を中心に様々な治療法が試みられており、特定の治療法の有効性を示唆する結果にはならなかった。
- これまでの調査を通じて、長期的な副反応と思われる症状について、おおむねの傾向が確認できたと考える。
- 観察された多くの症状は、新型コロナウイルスワクチン開発時の臨床試験において副反応として報告されたもの*5とおおむね一致していた。
- また、観察された症状は国の「新型コロナワクチン接種後の遷延する症状に関する実態調査について」*6に記載された症状や代表的な新型コロナウイルス罹患後症状*7,8として報告されたものとも類似していた。「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き 別冊 罹患後症状のマネジメント（第2.0版）」*8では、

罹患後症状の発現には複合的な要因が関与しており、全人的なアプローチが重要であるとしている。同手引きでは、症状に応じた具体的な対応方法も紹介しており、例えば神経症状を訴える患者に対しては、身体所見や検査結果に異常がないという理由で診療を打ち切らず、生活に対するアドバイス、リハビリテーションを含む対症療法や心理的サポートを考慮し、症状の悪化が見られる場合など、必要に応じて専門医への紹介を勧めている。このような罹患後症状への対応方法は、ワクチン接種後の症状の治療選択においても参考になるとと思われる。

- また、近年、特定のワクチンに限らず、予防接種という行為そのものにより誘発されるストレス反応（予防接種ストレス関連反応、ISRR）が、様々な症状を引き起こすことが知られるようになった。ISRRには、接種直前後に起きる血管迷走神経反射などの急性反応から、数日後に起きる遅発性の神経症状まであり、今回の症例の中にも類似の症状が一部含まれている。WHOの対応マニュアル*⁹では、「ISRRは生物学的要因に加え、心理・社会的要因が複合的に作用して生じると考えられ、症状に応じた丁寧な対応が肝要である」としており、こちらも治療上の参考として有用と考える。
- 今回の調査は、長期的な副反応と思われる症状を発症した方のうち、協力医療機関を受診した方だけを対象とした調査であること、調査対象とした症例のうち回答があったのは約55%にとどまることなどの限界があり、結果の解釈には慎重でなくてはならない。
- しかし、新型コロナウイルスワクチンの長期的な副反応に関する調査はまだ極めて少なく、特にかかりつけ医などを受診された方の治療方法等の調査は、ほとんどないことから、この調査は先駆的で希少なものとする。
- なお、本市の相談窓口が新型コロナウイルスワクチン接種後の長期的な副反応に関する相談に応じ、治療が必要と考えられる方を協力医療機関に案内し、実際に受診されていることが、調査においても確認できた。本市の相談窓口が、引き続き、新型コロナウイルスワクチン接種後の長期的な副反応と思われる症状にお困りの方が治療につながるよう、大切な役割を果たしていくことを期待する。

- *5 一般社団法人日本ワクチン産業協会：予防接種に関するQ&A集 2022. (表5～8)
http://www.wakutin.or.jp/medical/pdf/qa_2022.pdf
- *6 新型コロナワクチン接種後の遷延する症状に関する実態調査について (表9)
<https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/001198123.pdf>
- *7 新型コロナウイルス罹患後症状 (表10)
 COVID-19 罹患後に、感染性は消失したにもかかわらず、他に明らかな原因がなく、急性期から持続する症状や、あるいは経過の途中から新たに、または再び生じて持続する症状全般
- *8 厚生労働省：新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 診療の手引き 別冊 罹患後症状のマネジメント第2.0版.
<https://www.mhlw.go.jp/content/000952747.pdf>
- *9 WHO：予防接種ストレス関連反応 (ISRR) 予防接種プログラム責任者及び医療関係者のための予防接種ストレス関連反応 (ISRR) の予防、発見及び対応の実施マニュアル.
<https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/330277/9789241515948-jpn.pdf>

表5 ファイザー社製ワクチンの臨床試験における副反応

	5%以上	1%～5%未満	1%未満	頻度不明
局所症状 (注射部位)	疼痛 (85.6%)、 腫脹 (10.3%)、発赤・紅斑		そう痒感、熱感、内出血、浮腫	
精神神経系	頭痛 (59.4%)		浮遊性めまい、嗜眠、不眠症、顔面麻痺	
消化器	下痢 (14.8%)	嘔吐	悪心、食欲減退	
呼吸器			口腔咽頭痛、鼻閉	
筋・骨格系	筋肉痛 (38.8%) 関節痛 (23.0%)		四肢痛、背部痛	
皮膚			多汗症、発疹、寝汗	
血液			リンパ節炎	
免疫系				過敏症 (発疹、そう痒症、紅斑、蕁麻疹、血管性浮腫、顔面腫脹等)
その他	疲労 (66.0%)、悪寒 (36.0%)、発熱 (16.8%)	疼痛	倦怠感、無力症 インフルエンザ様症状	

「コミナティ筋注、コミナティ筋注5～11歳用 適正使用ガイド」独立行政法人医薬品医療機関総合機構
<https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuDetail/GeneralList/631341D> 2023年8月現在

表6 モデルナ社製ワクチンの臨床試験における副反応

	1%以上	1%未満	頻度不明
局所症状 (注射部位)	疼痛 (92.6%)、腫脹・硬結 (16.5%)、発赤・紅斑 (12.2%) 遅延性反応 (疼痛、腫脹、紅斑など) 発赤、腫脹	そう痒感 じん麻疹	
精神神経系	頭痛 (66.4%)		急性末梢性顔面神経麻痺
消化器	悪心、嘔吐 (23.6%)		
筋・骨格系	筋肉痛 (60.4%)、関節痛 (44.6%)		
皮膚		発疹	
血液	リンパ節症 (21.9%)		
その他	疲労 (70.6%)、悪寒 (45.9%) 発熱 (15.4%)	顔面腫脹	

「スパイクバックス筋注 適正使用ガイド」独立行政法人医薬品医療機関総合機構
<https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuDetail/GeneralList/631341E> 2022年8月現在

表7 アストラゼネカ社製ワクチンの臨床試験における副反応

	5%以上	1%～5%未満	1%未満	頻度不明
血液			リンパ節炎	血小板減少
精神神経系	頭痛 (51.1%)		浮遊性めまい、傾眠	
消化器	悪心 (20.5%)	嘔吐	下肢、腹痛	
皮膚			多汗症、そう痒感 発疹、じん麻疹 (0.1%未満)	
筋・骨格系	筋肉痛 (43.5%)、関節痛 (26.6%)	四肢痛		
局所症状 (注射部位)	注射部位圧痛 (62.6%) 注射部位疼痛 (54.7%) 注射部位熱感 (17.9%) 注射部位挫傷 (17.9%) 注射部位そう痒感 (13.1%)	注射部位腫脹、 注射部位発赤、 注射部位硬結		
全身症状	疲労 (51.6%)、倦怠感 (43.8%)、発熱感 (33.5%)、悪寒 (31.0%)、発熱	無力症	インフルエンザ様症状	血管性浮腫

「バキスゼブリア筋注 添付文書」2022年4月改訂 (第5版)

表8 ノババックス社製ワクチンの臨床試験における副反応

	10%以上	1%～10%未満	1%未満
局所症状 (注射部位)	圧痛 (75.1%)、疼痛 (62.5%)	発赤・紅斑、腫脹、硬結	そう痒症
血液			リンパ節炎
精神神経系	頭痛 (50.8%)		
消化器	悪心・嘔吐 (15.1%)		
皮膚			発疹、紅斑、そう痒症、じん麻疹
筋・骨格系	筋肉痛 (51.4%)、関節痛 (23.6%)		
その他	疲労 (53.0%)、倦怠感 (41.1%)	発熱、四肢痛	悪寒

「ヌバキンビッド 筋注 添付文書」2022年7月改訂 (第4版)

表9 当該医療機関の受診のきっかけとなった症状のうち日常生活を送る上で最も支障を来している主な症状

発熱 (37度以上)	48	下痢	2	下肢浮腫	1	紅斑	1	左上肢運動障害	1
疼痛	26	紅斑、モデルナアーム	2	肩・後頭部のしびれ	1	嘔声	1	左上肢感覚鈍麻	1
頭痛	24	呼吸苦	2	活動性低下	1	四肢	1	左上肢挙上困難と痛み	1
倦怠感	23	しびれ	2	肝機能障害	1	舌のしびれ	1	左上肢脱力	1
関節痛	11	じんましん	2	眼球充血	1	湿疹	1	左視力低下	1
動悸	11	浮腫	2	顔面の紅潮	1	紫斑	1	左前腕尺骨4.5指しびれ	1
嘔気・嘔吐	10	膨疹	2	気道の狭窄感	1	心停止	1	左手の違和感、脱力	1
胸痛	10	歩行障害	2	胸部の不快感	1	蕁麻疹	1	左半身しびれ	1
意識障害	7	発赤	2	胸膜炎	1	性器出血	1	頻尿	1
筋肉痛	7	アナフィラキシー	1	筋力低下	1	接種部位の発赤腫脹	1	不眠	1
血尿	7	息苦しさ	1	口の腫れ	1	全身の発疹	1	震え、振戦	1
皮疹	7	意識障害、SpO2	1	頸部のかゆみ、発赤	1	脱毛	1	発疹、掻痒感	1
発疹	6	咽頭の違和感、息苦しさ	1	頸部より上の腫れ ぼったい感じ	1	脱力、しびれ	1	発赤、掻痒感	1
息切れ	5	咽頭の違和感、つまり感	1	けいれん	1	点状出血	1	味覚障害	1
腹痛	4	咽頭の掻痒感	1	痙攣	1	疼痛、じんま疹	1	右手首～指先のしびれ	1
リンパ節腫脹	4	咽頭の不快感	1	けいれん・意識障害	1	喉の違和感	1	右目掻痒感	1
咽頭違和感	3	SpO2低下	1	血圧低下	1	鼻づまり	1	めまい	1
集中力低下	3	嚥下困難	1	倦怠感、息切れ	1	皮疹、紅斑、 モデルナアーム	1	腰部・両上肢のしびれ	1
咽頭部不快感	2	悪寒戦慄	1	口腔粘膜浮腫	1	左腋窩、鎖骨痛	1	両側手拳末梢側のしびれ	1
悪寒	2	過換気	1	高血圧	1	左関節可動域制限	1	両手のしびれ	1
咳嗽	2	下肢の違和感	1	口唇の腫脹	1	左上顎しびれ	1	ろれつ障害	1

「新型コロナワクチン接種後の遷延する症状に関する実態調査について (第三報)」 2024年1月26日厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/001198123.pdf>

表10 代表的な罹患後症状

・疲労感	・倦怠感	・関節痛	・筋肉痛	・咳	・喀痰	・息切れ	・胸痛	・脱毛	・記憶障害
・集中力低下	・頭痛	・抑うつ	・味覚障害	・動悸	・下痢	・腹痛	・睡眠障害	・筋力低下	

「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 診療の手引き 別冊 罹患後症状のマネジメント第2.0版」 厚生労働省

7 おわりに

ワクチンは、発症や重症化予防のための免疫を人為的に惹き起こすための医薬品であり、ワクチン接種には、接種部位の腫脹・疼痛や、発熱、リンパ節腫脹などの好ましくない症状を少なからず伴います。深刻な健康障害が起きる可能性もわずかながら否定できず、接種後に生じる症状については、慎重な対応が必要です。

本市では、名古屋市医師会、愛知県看護協会にご協力をいただき、令和4年3月25日に「長期的な副反応相談窓口」を開設し、受診を希望する方に協力医療機関を案内してまいりました。本症例集は、調査への協力を同意された医療機関を受診された患者さんの症状、治療法に関する調査結果をまとめたものです。

本症例集の第1報が公表された令和4年3月末時点では、治療状況について詳しい調査ができた症例は20例に留まり、症状の特徴や治療法について、一定の傾向を見出すには至りませんでした。関係者の多大な尽力で調査を続け、本年9月末に公表された第2報では43例、今回の第3報では49症例まで対象を増やし、分析することができました。

これまでに確認された症状の大半は、主な新型コロナウイルスワクチン開発時の臨床試験において、副反応として公表されているものと概ね一致しており、治療には、漢方薬など、症状に合わせて様々な治療法が試みられていました。また過半数は軽快または改善傾向にあることが確認できました。限られた一部の医療機関からの回答による調査ではありますが、こうした症例の検討を通じて、新型コロナウイルスワクチン接種後の長期的な副反応と思われる症状で受診された方の症例について一定の傾向が明らかになったものと考えております。

国は、新型コロナウイルスワクチンの接種後に生じた特定の症状（アナフィラキシー）や、ワクチン接種との関連を否定できない重篤な症状等の報告を医師や医療機関に義務付け、データの収集・公表と専門家の検証を続けているほか^{*10}、新型コロナ

ウイルスワクチン接種後の遷延する症状について、全国約470の専門的医療機関を対象とする実態調査を行っており*11、本市と同様の傾向が確認されています。今後は、症例収集を継続するとともに、一部の未回復例や難治例について、さらに検証が必要と考えられます。

末筆ながら、本症例集が新型コロナウイルスワクチン接種後の体調不良でお悩みの方や治療を行っている医療者の方々にとって少しでも役立つことを祈念するとともに、大変ご多忙の中、調査にご協力いただきました医療機関のみなさま、名古屋市医師会、愛知県看護協会、そして症例集の作成にご尽力くださいました竹中委員、結城委員、松原委員に心より感謝申し上げます。

名古屋市健康福祉局 医監

小嶋 雅代

*10 厚労省：新型コロナワクチンの副反応疑い報告について．

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_hukuhannou-utagai-houkoku.html

*11 厚労省：新型コロナワクチン接種後の遷延する症状に関する実態調査について（第三報）．

<https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/001198123.pdf>

[資料1] 長期的な副反応相談窓口への相談実績

公益社団法人 愛知県看護協会

常務理事 結城 房子

(1) 経緯

新型コロナウイルスワクチン接種の普及に伴い名古屋市は、ワクチン接種後の長期的な副反応と思われる症状を訴える市民を対象に相談窓口を設置した。

その目的は、接種後2週間以上経過しても継続する副反応と思われる症状に対応する医療機関の案内や予防接種健康被害救済制度につなげることである。愛知県看護協会は、経験豊富なプラチナナース（定年退職前後の看護師）を雇用し、令和4年3月25日から相談業務を開始し、現在に至る。第3報では、第2報の期間に加え、令和5年4月1日から9月30日までの相談件数を追加して集計した。

(2) 相談件数

今回、第3回調査の期間に合わせた調査対象期間令和5年4月1日～令和5年9月30日の相談件数は322件（13.0%）、全調査対象期間令和4年3月25日～令和5年9月30日の相談件数は、2,471件であった。

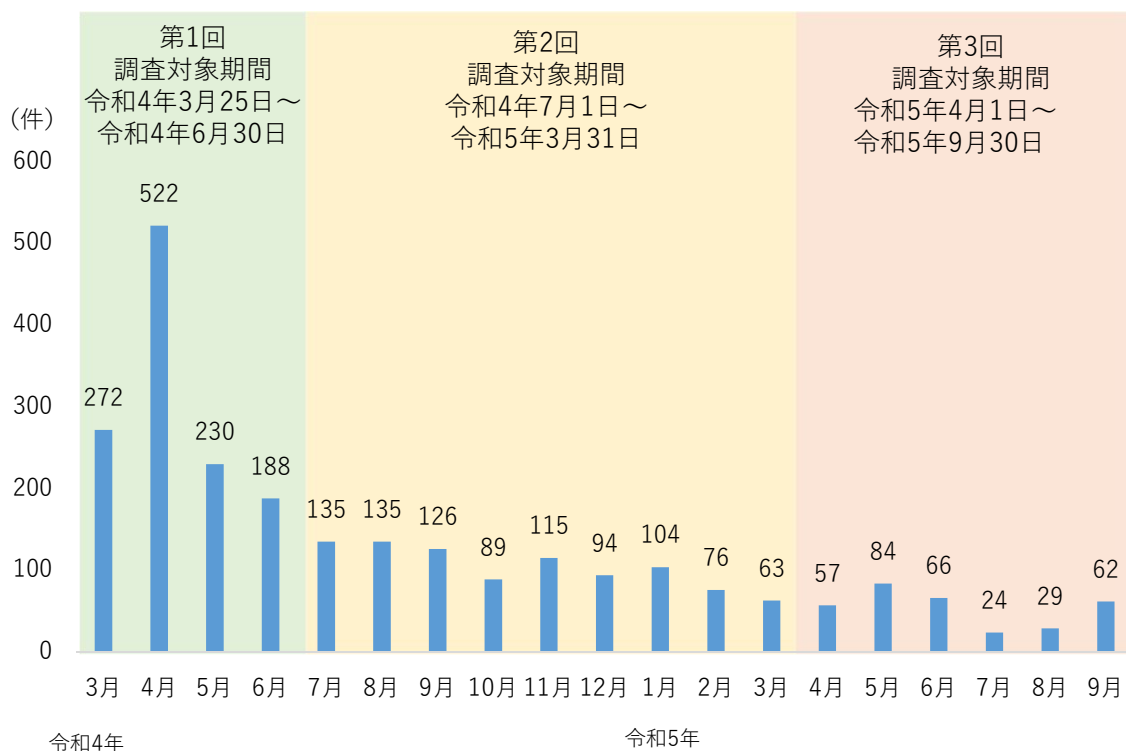


図1 月別の相談件数（n=2,471）

(3) 性別・年代

性別は男性958人（38.8%）、女性1,488人（60.2%）、不明25人（1.0%）であった。（図2）

年代は70歳代500人（20.2%）、次いで50歳代459人（18.6%）が多かった。（図3）

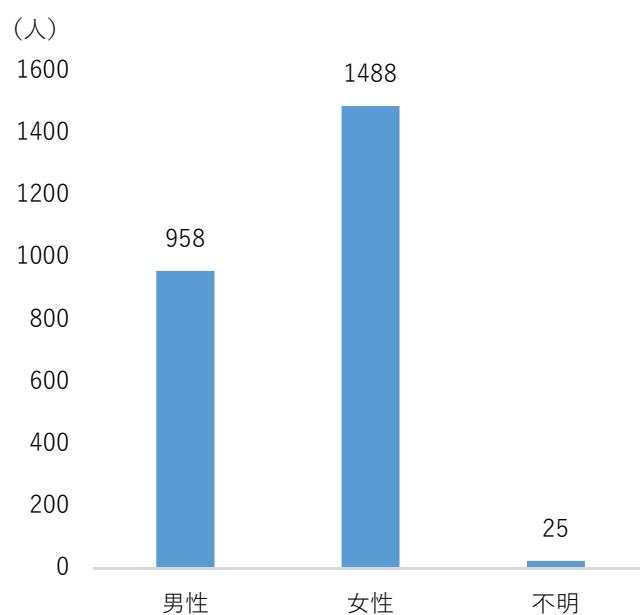


図2 性別内訳（n = 2,471）

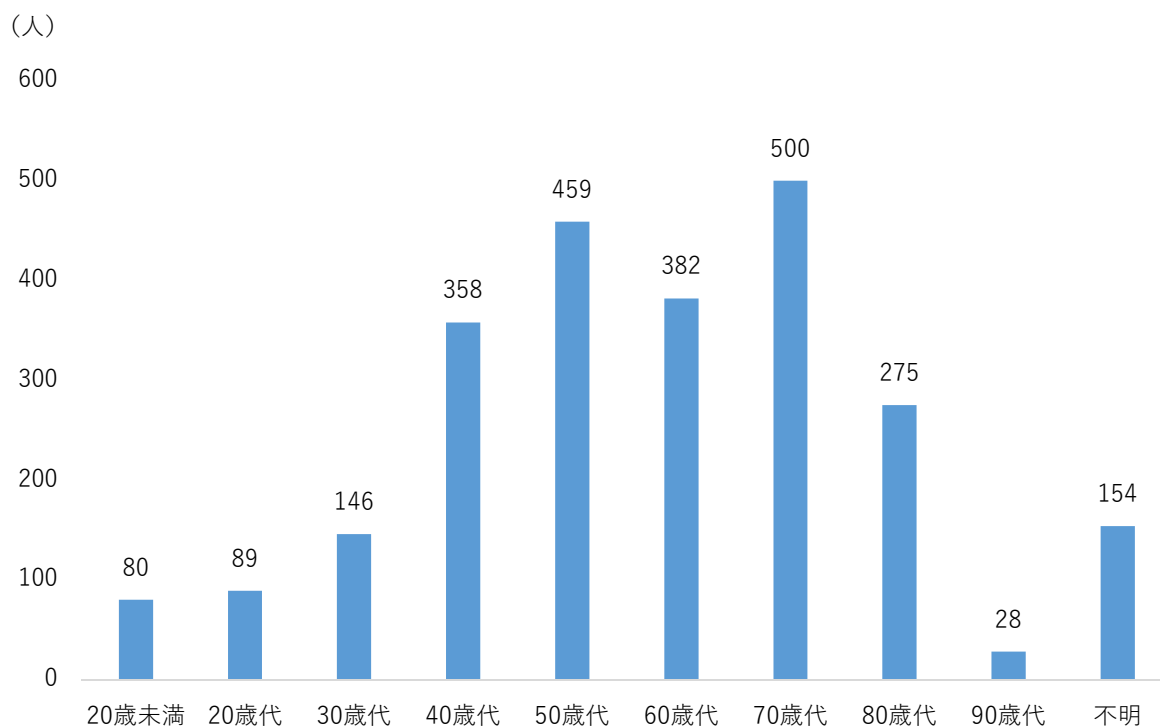


図3 年代別内訳（n = 2,471）

(4) 居住地

相談者の居住地は、名古屋市内1,755人（71.0%）、名古屋市を除く県内281人（11.4%）、県外266人（10.8%）であった。

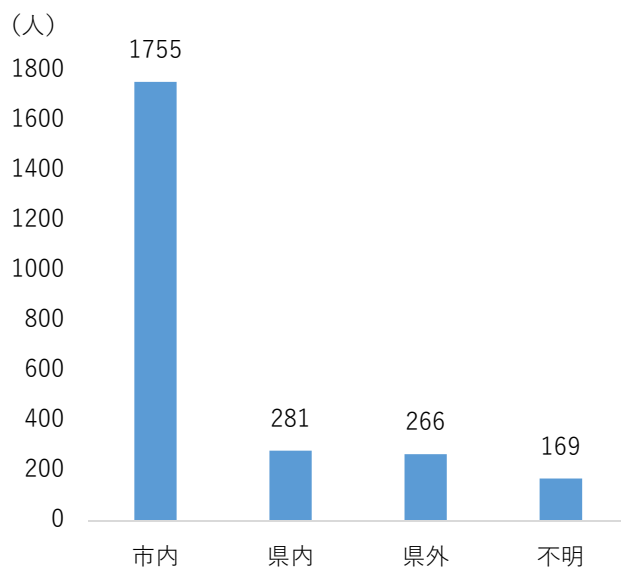


図4 居住地内訳（n = 2,471）

(5) 相談内容

相談内容は、他の医療機関の受診相談が699件（28.3%）、症状についての確認・相談が560件（22.7%）、初めての受診に関する相談377件（15.3%）の順であった。他に次の接種の相談や救済制度の情報が欲しい、症状（苦痛）に関する訴えがあった。

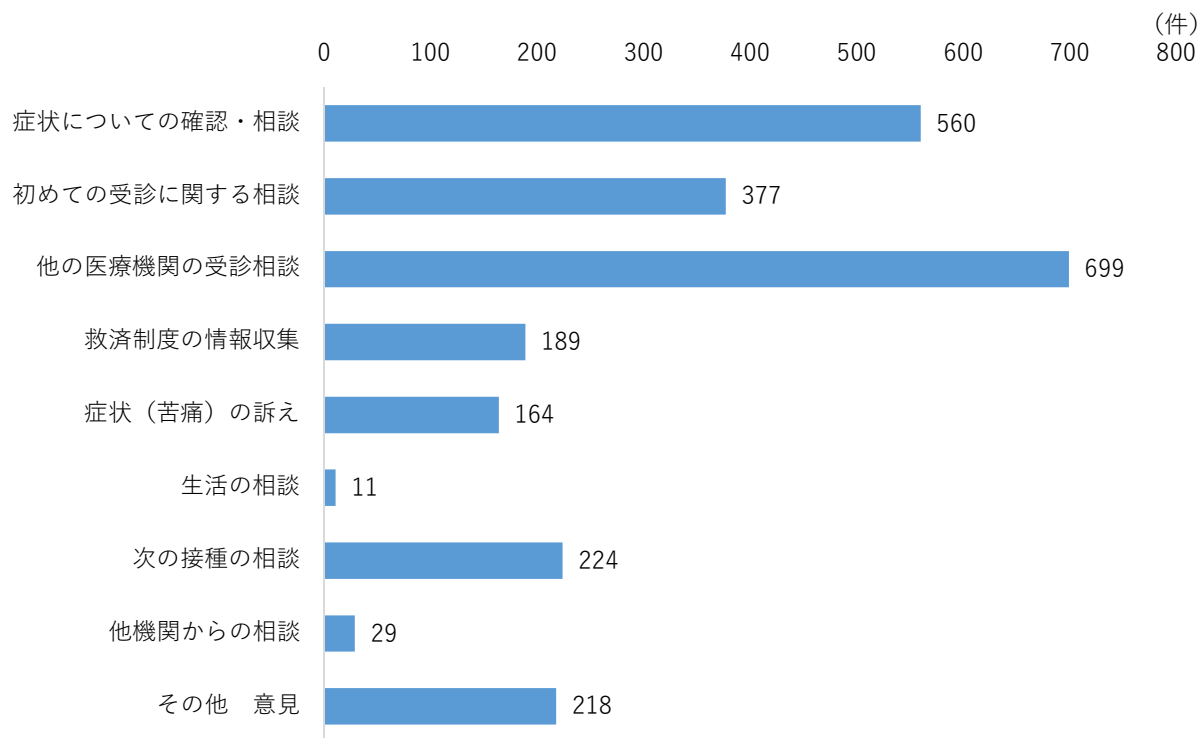


図5 相談内容内訳（n = 2,471）

(6) 相談した時期

相談時期は相談者が自分の症状をワクチンの副反応ではないかと自覚したときからとして集計している。接種後、6か月～1年未満の相談が531件（21.5％）であり、1か月～2か月未満が312件（12.6％）、であり、3か月～6か月が303件（12.3％）であった。また、1年以上が227件（9.2％）であり、副反応と思われる症状が持続している事例もあった。

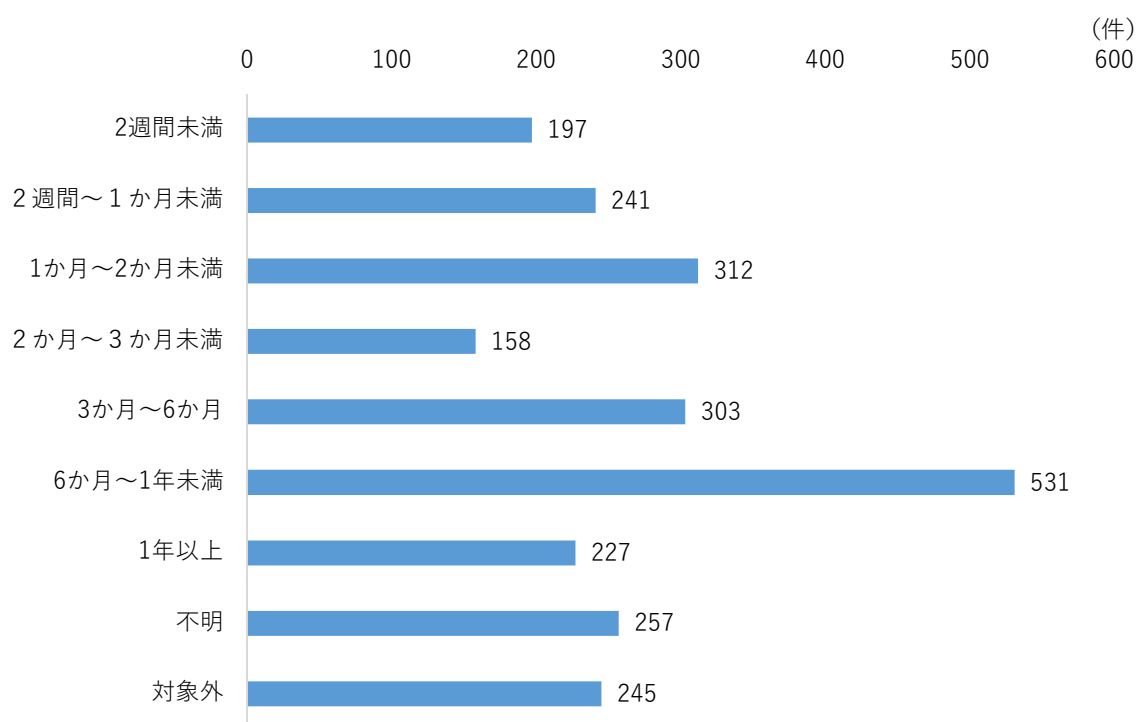


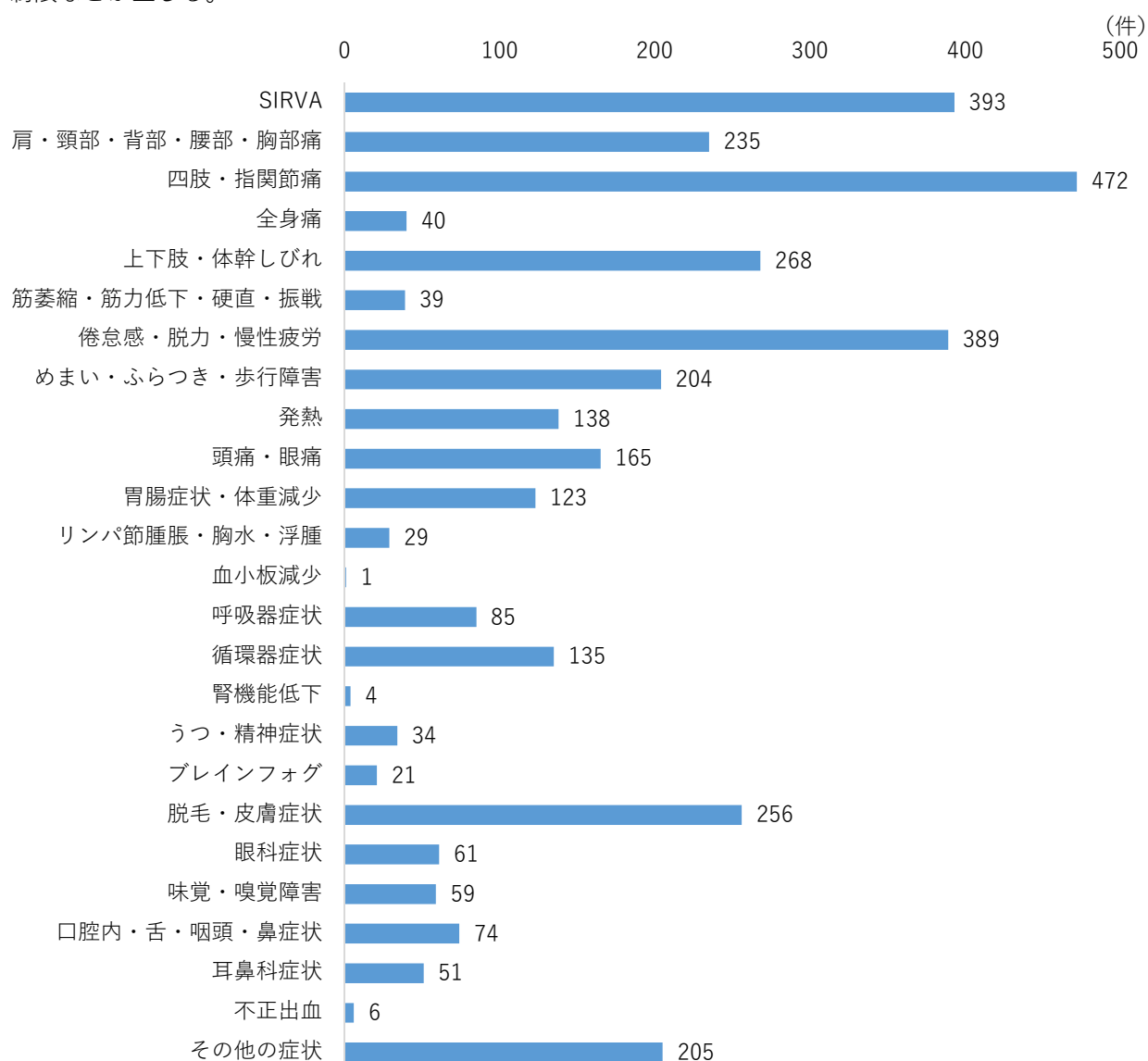
図6 接種後に相談した時期（n = 2,471）

(7) 最も困っている症状

最も困っている症状は、四肢・指関節痛472件、SIRVA*393件、倦怠感・脱力・慢性疲労389件、上下肢・体幹のしびれ268件、肩・頸部・背部・腰部・胸部痛235件、の順であった。

年代別にみると、20歳未満は、頭痛・眼痛、倦怠感・脱力・慢性疲労が多く、20歳代は倦怠感・脱力・慢性疲労、30歳代は倦怠感・脱力・慢性疲労、40歳代は四肢・指関節痛、50歳以上は四肢・指関節痛、SIRVAが多かった。（図7）

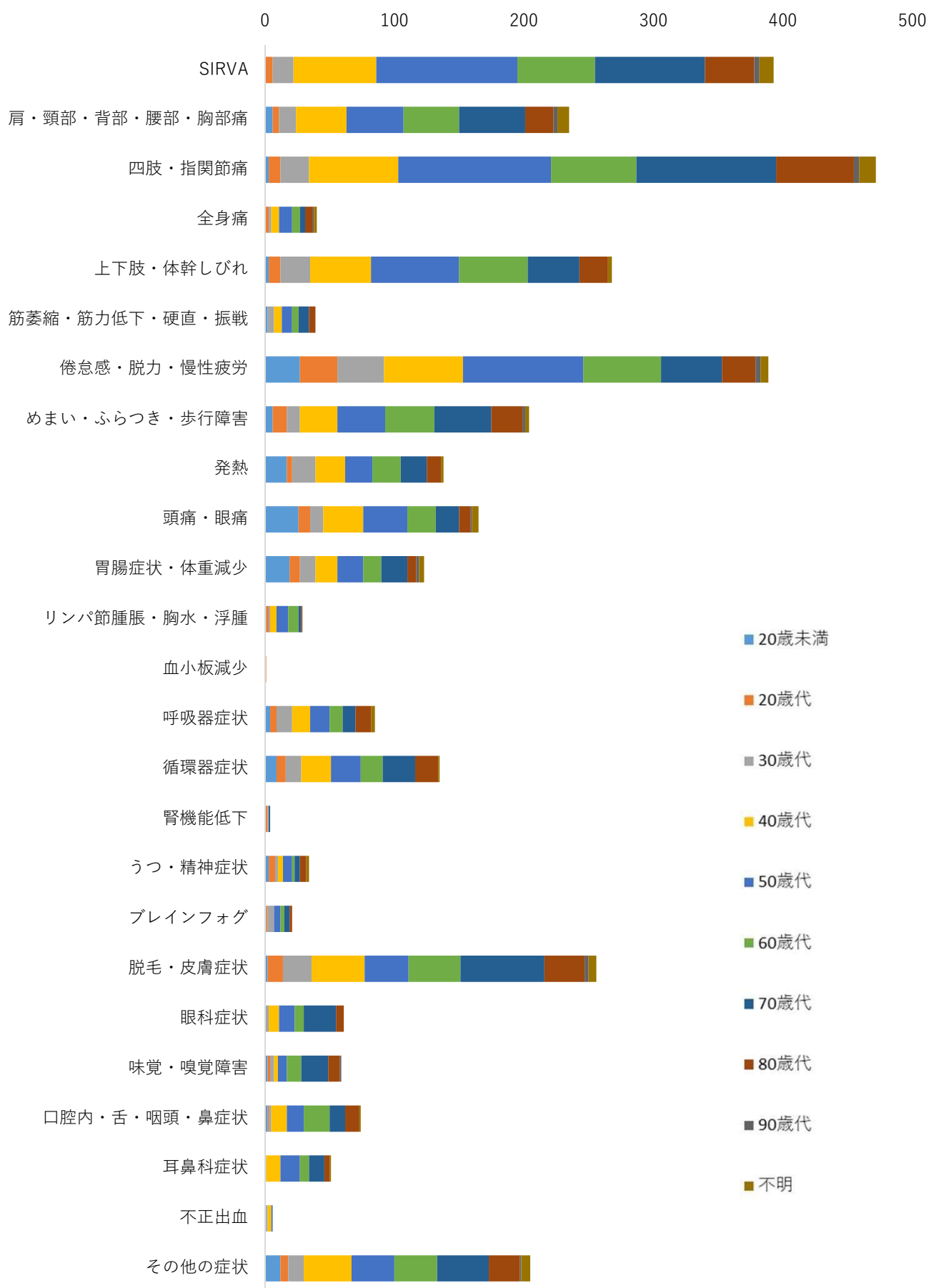
*Shoulder Injury Related Vaccine Administrationの略。ワクチン接種に関連した肩関節障害と訳され、ワクチン接種後に生じる肩の急性炎症（肩関節周囲炎、滑液包炎、腱板炎など）で、肩の疼痛や可動域制限などが生じる。



※複数の訴えがあるため、重複あり

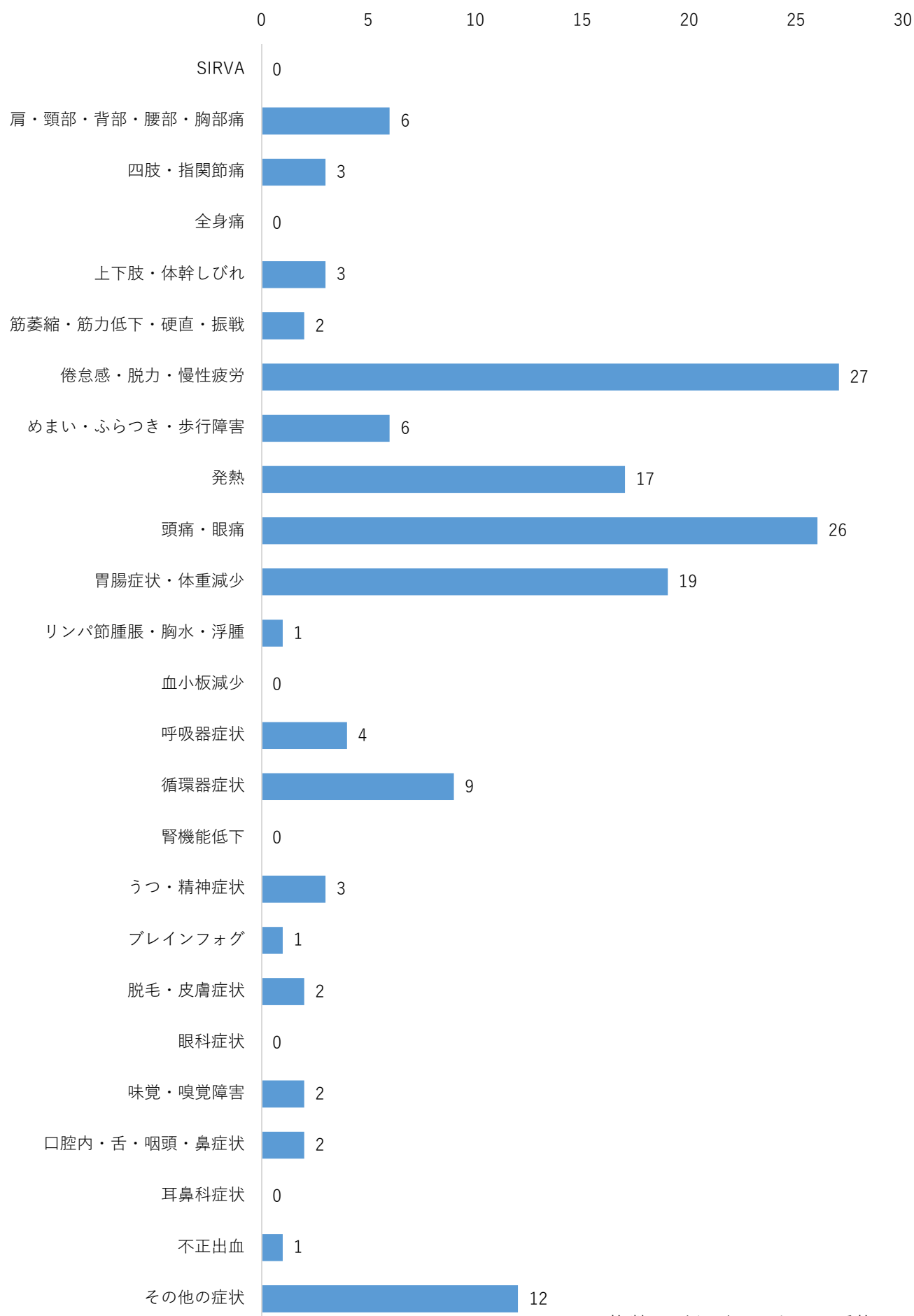
図7 最も困っている症状

【参考】年代別の症状（令和4年3月25日～令和5年10月1日の実績）



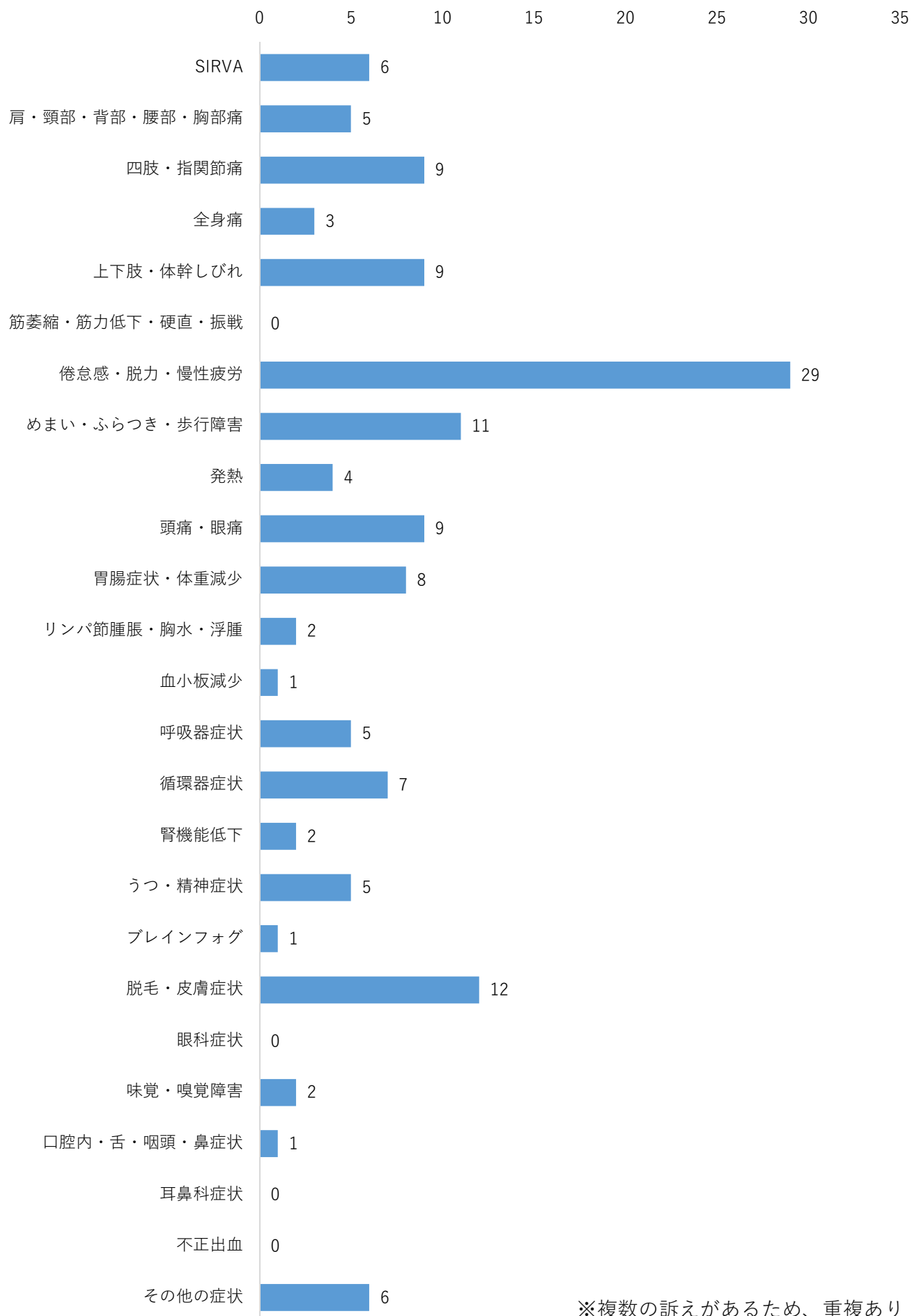
※複数の訴えがあるため、重複あり

20歳未満（80人）

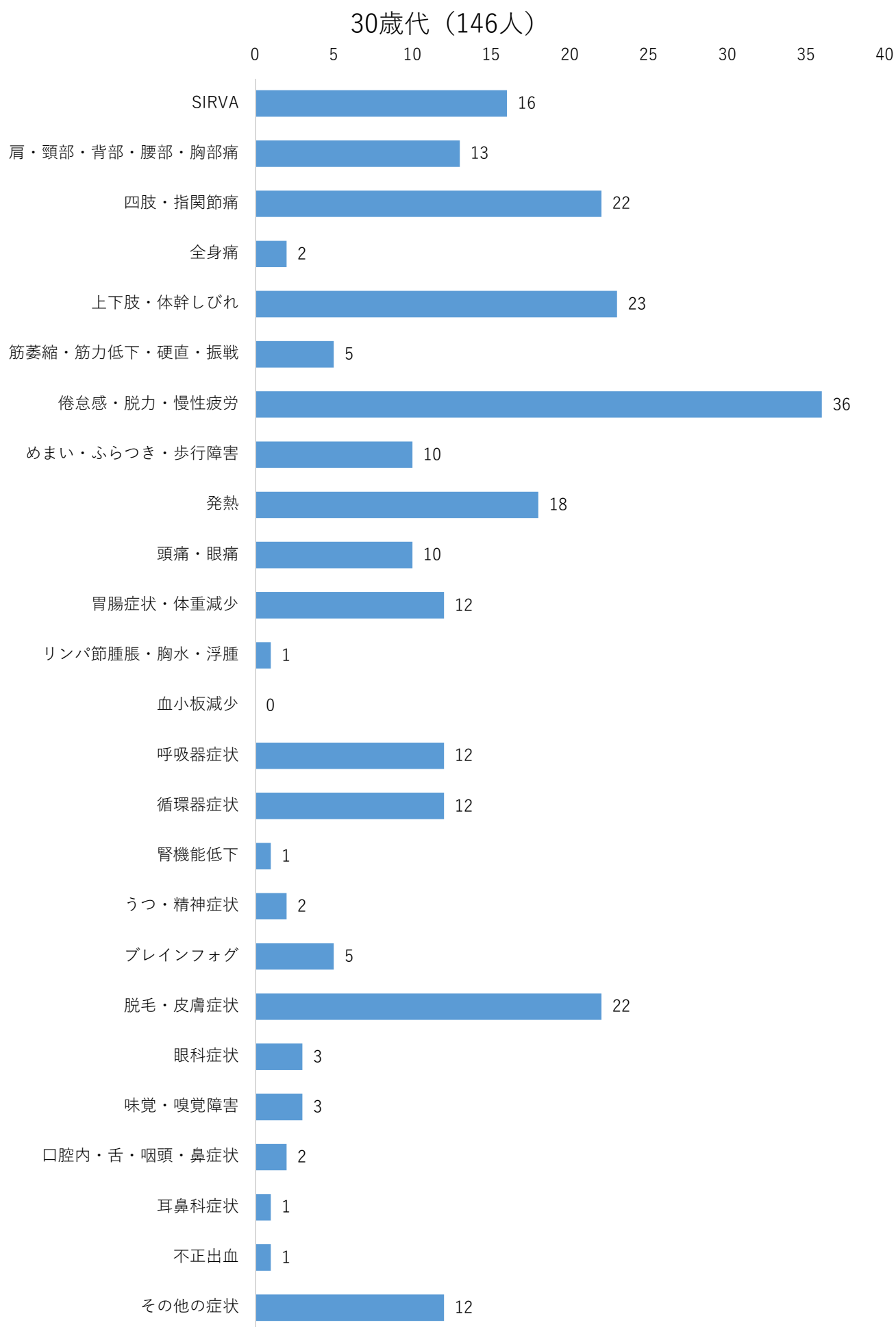


※複数の訴えがあるため、重複あり

20歳代（89人）

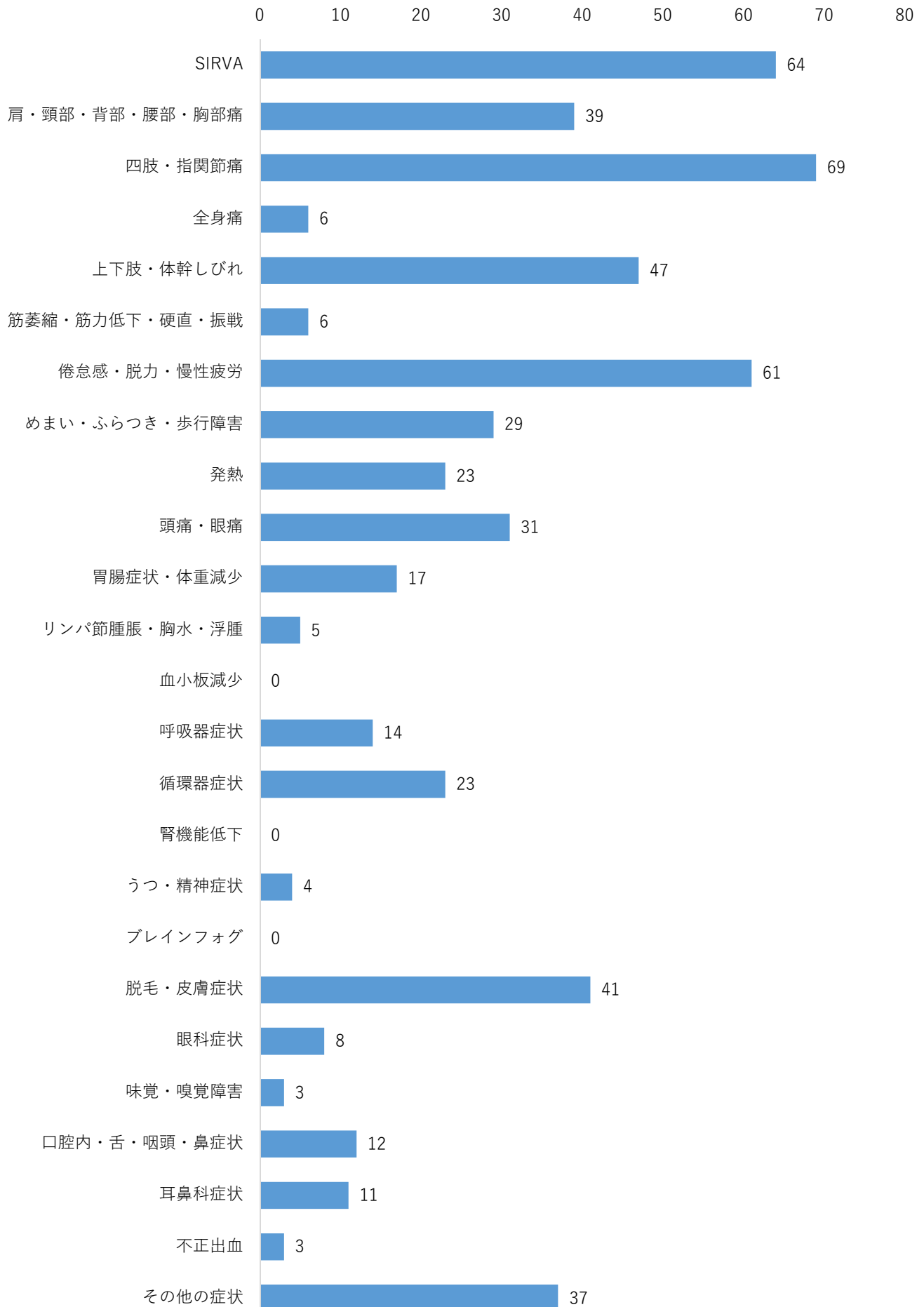


※複数の訴えがあるため、重複あり



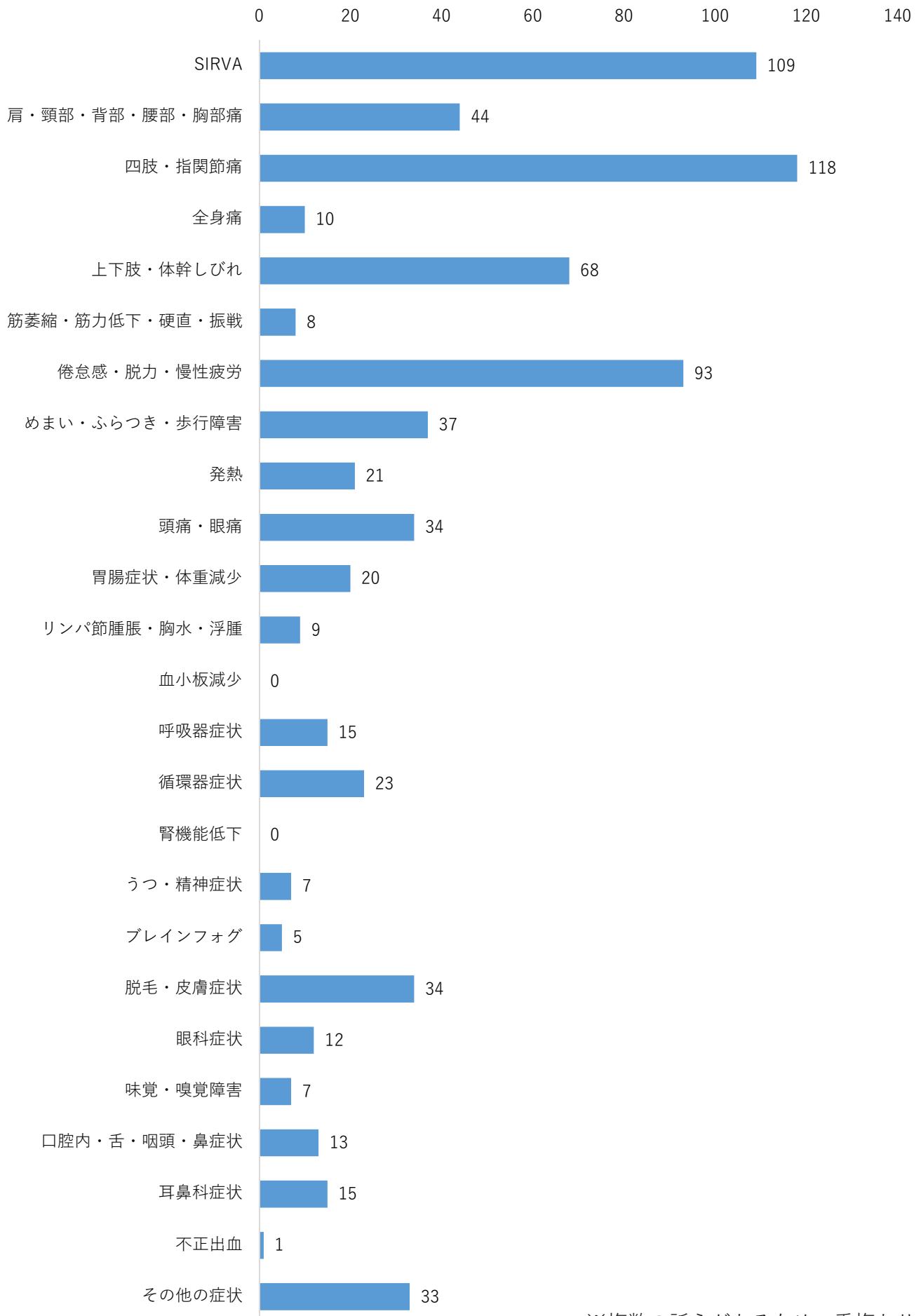
※複数の訴えがあるため、重複あり

40歳代（358人）



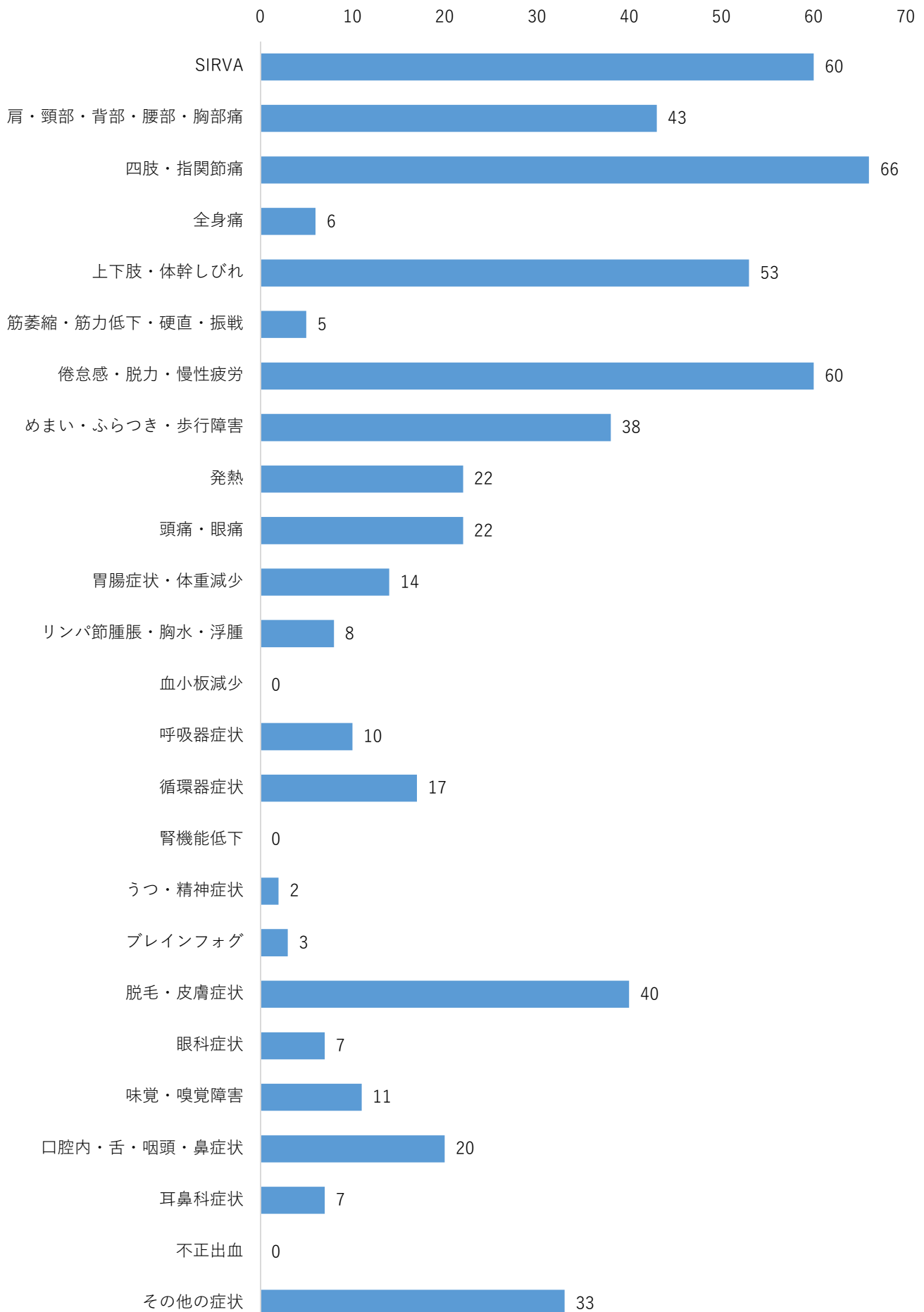
※複数の訴えがあるため、重複あり

50歳代（459人）



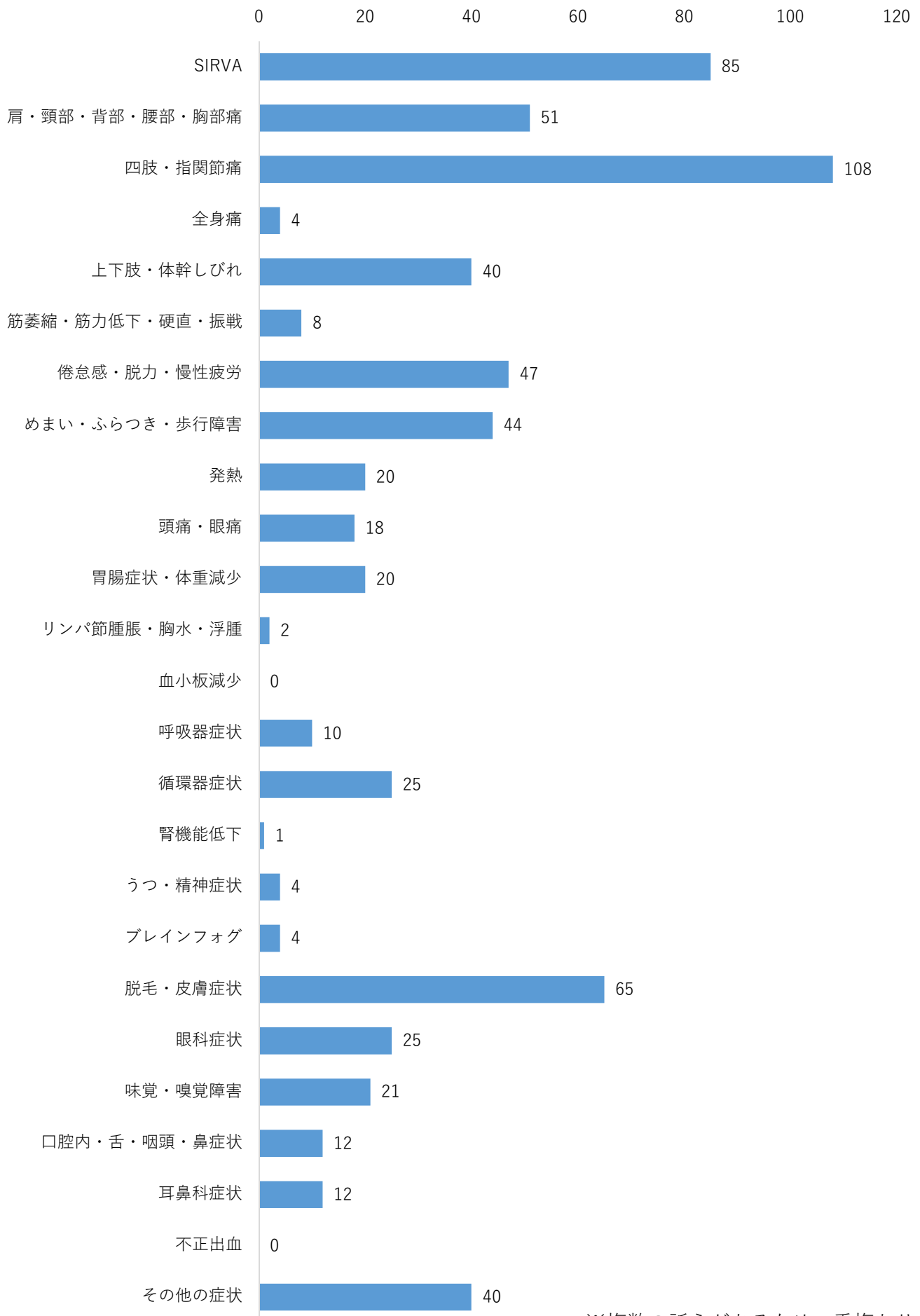
※複数の訴えがあるため、重複あり

60歳代（382人）



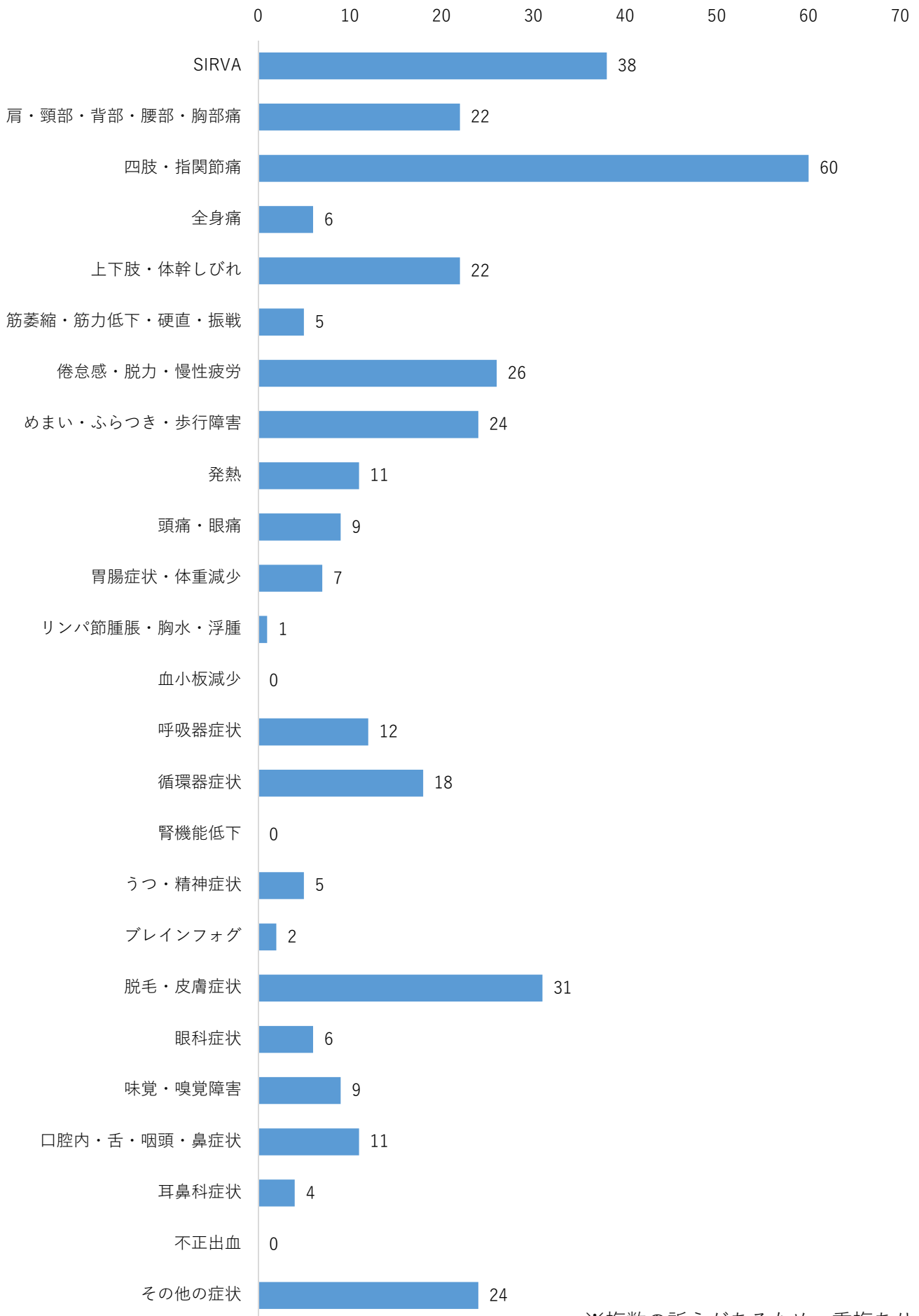
※複数の訴えがあるため、重複あり

70歳代（500人）



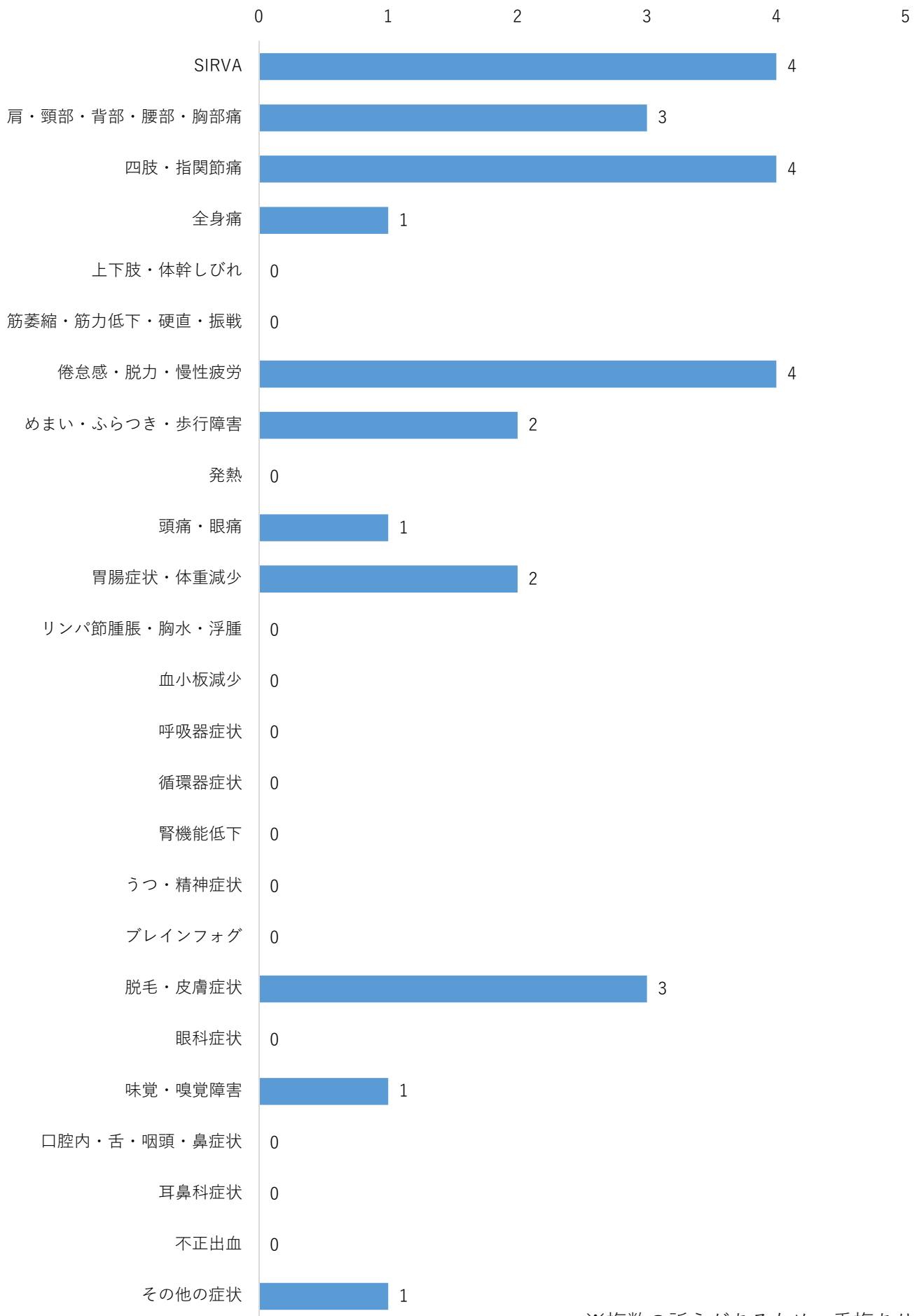
※複数の訴えがあるため、重複あり

80歳代（275人）



※複数の訴えがあるため、重複あり

90歳代（28人）



※複数の訴えがあるため、重複あり

(8) 相談窓口の様子



調 査 票

医療機関名

(1)	年 齢	歳		
	性 別	☐ 男性	☐ 女性	☐ その他
(2)	発症日	年	月	日
	初診日	年	月	日 (注) 副反応疑いで受診した最初の日
(3)	主訴 (接種後の症状)	☐ 咳嗽 ☐ 呼吸困難 ☐ 喘鳴 ☐ 胸痛 ☐ 動悸 ☐ 関節痛 ☐ 筋肉痛 ☐ 頭痛 ☐ 嘔気 ☐ 倦怠感 ☐ めまい ☐ 脱力 ☐ 口渇 ☐ 食欲低下 ☐ 下痢 ☐ 腹痛 ☐ 味覚障害 ☐ 嗅覚障害 ☐ 咽頭違和感 ☐ 嚥下障害 ☐ しびれ ☐ 手指こわばり ☐ 筋力低下 ☐ 聴覚障害 ☐ 記憶力低下 ☐ 集中力の低下 ☐ 睡眠障害 ☐ 抑うつ ☐ 脱毛 ☐ 皮疹 ☐ かゆみ ☐ その他 ()		
(4)	接種歴 接種日	☐ 1回 接種日 () メーカー (ファイザー・モデルナ・不明・その他 ()) 種類 (従来株 (1価)・BA.1/BA.4-5 (2価)・XBB.1.5 (1価)・不明) ☐ 2回 接種日 () メーカー (ファイザー・モデルナ・不明・その他 ()) 種類 (従来株 (1価)・BA.1/BA.4-5 (2価)・XBB.1.5 (1価)・不明) ☐ 3回 接種日 () メーカー (ファイザー・モデルナ・不明・その他 ()) 種類 (従来株 (1価)・BA.1/BA.4-5 (2価)・XBB.1.5 (1価)・不明) ☐ 4回 接種日 () メーカー (ファイザー・モデルナ・不明・その他 ()) 種類 (従来株 (1価)・BA.1/BA.4-5 (2価)・XBB.1.5 (1価)・不明) ☐ 5回 接種日 () メーカー (ファイザー・モデルナ・不明・その他 ()) 種類 (従来株 (1価)・BA.1/BA.4-5 (2価)・XBB.1.5 (1価)・不明) ☐ 6回 接種日 () メーカー (ファイザー・モデルナ・不明・その他 ()) 種類 (従来株 (1価)・BA.1/BA.4-5 (2価)・XBB.1.5 (1価)・不明) ☐ 7回 接種日 () メーカー (ファイザー・モデルナ・不明・その他 ()) 種類 (従来株 (1価)・BA.1/BA.4-5 (2価)・XBB.1.5 (1価)・不明) ☐ 不明		

追 跡 調 査 票

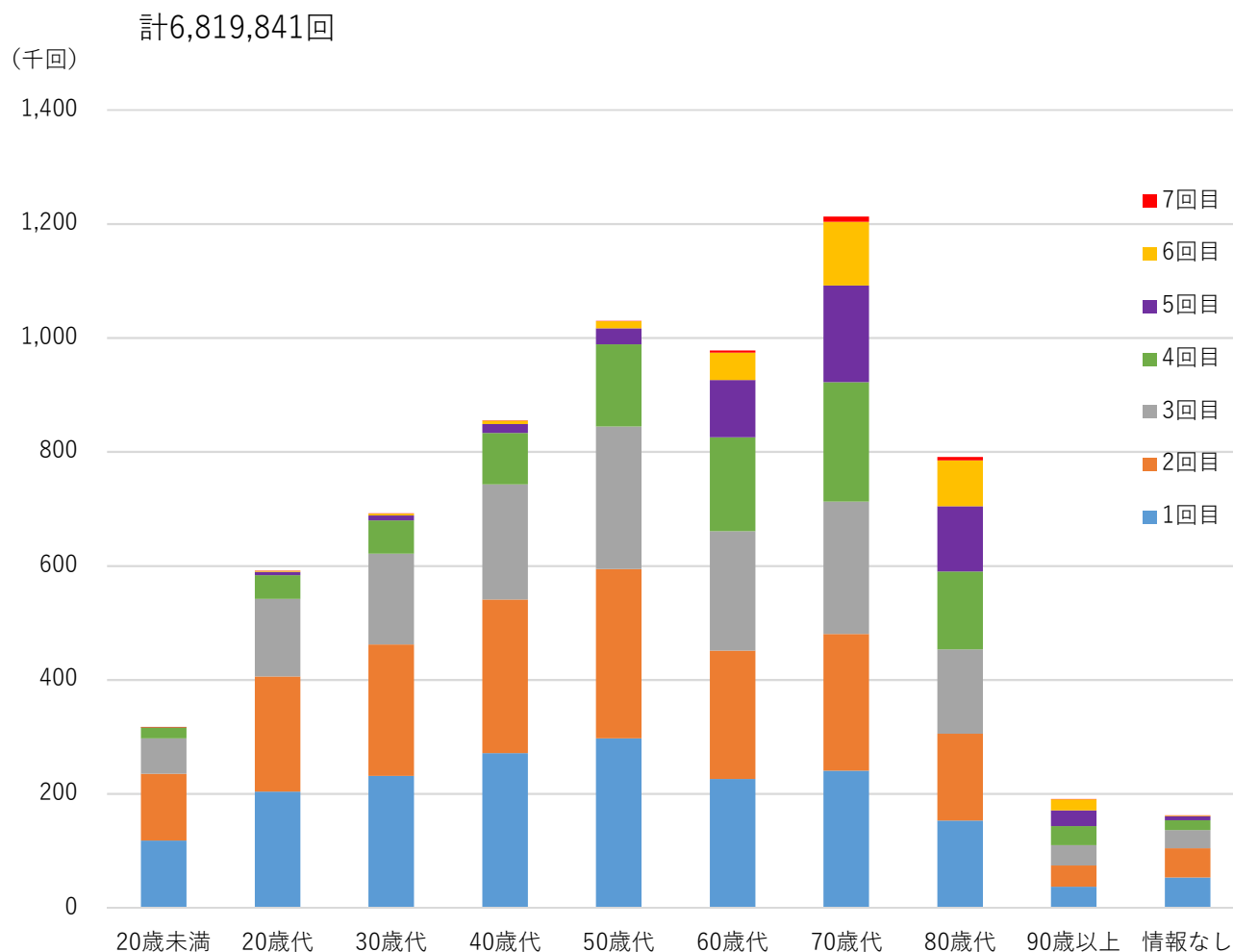
医療機関名

※症例集第1報、第2報において、ご提供いただいた症例の追跡調査となります。

(1)	年齢 性別 歳 ☐男性 ☐女性 ☐その他
(2)	現在の 主な症状 市で入力する ☐咳嗽 ☐呼吸困難 ☐喘鳴 ☐胸痛 ☐動悸 ☐関節痛 ☐筋肉痛 ☐頭痛 ☐嘔気 ☐倦怠感 ☐めまい ☐脱力 ☐口渇 ☐食欲低下 ☐下痢 ☐腹痛 ☐味覚障害 ☐嗅覚障害 ☐咽頭違和感 ☐嚥下障害 ☐しびれ ☐手指こわばり ☐筋力低下 ☐聴覚障害 ☐記憶力低下 ☐集中力の低下 ☐睡眠障害 ☐抑うつ ☐脱毛 ☐皮疹 ☐かゆみ ☐その他 ()
(3)	前回調査 時以降の 接種歴 ☐前回調査時以降の接種なし ☐不明 ☐前回調査時以降の接種あり ☐ 回目 接種日() メーカー(ファイザー ・ モデルナ ・ 不明 ・ その他 ()) 種類(従来株(1価) ・ BA.1/BA.4-5(2価) ・ XBB.1.5(1価) ・ 不明) ☐ 回目 接種日() メーカー(ファイザー ・ モデルナ ・ 不明 ・ その他 ()) 種類(従来株(1価) ・ BA.1/BA.4-5(2価) ・ XBB.1.5(1価) ・ 不明)
(4)	治療方針 ☐薬物治療(薬剤名：) ☐イベルメクチン投薬(有 ・ 無) ☐非薬物治療() ☐他院への紹介のみ

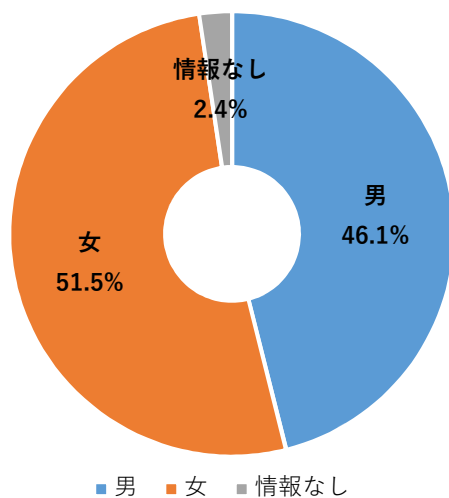
[資料3] 名古屋市の新型コロナウイルスワクチンの接種状況

(1) 年代別総接種回数（令和5年9月30日時点）



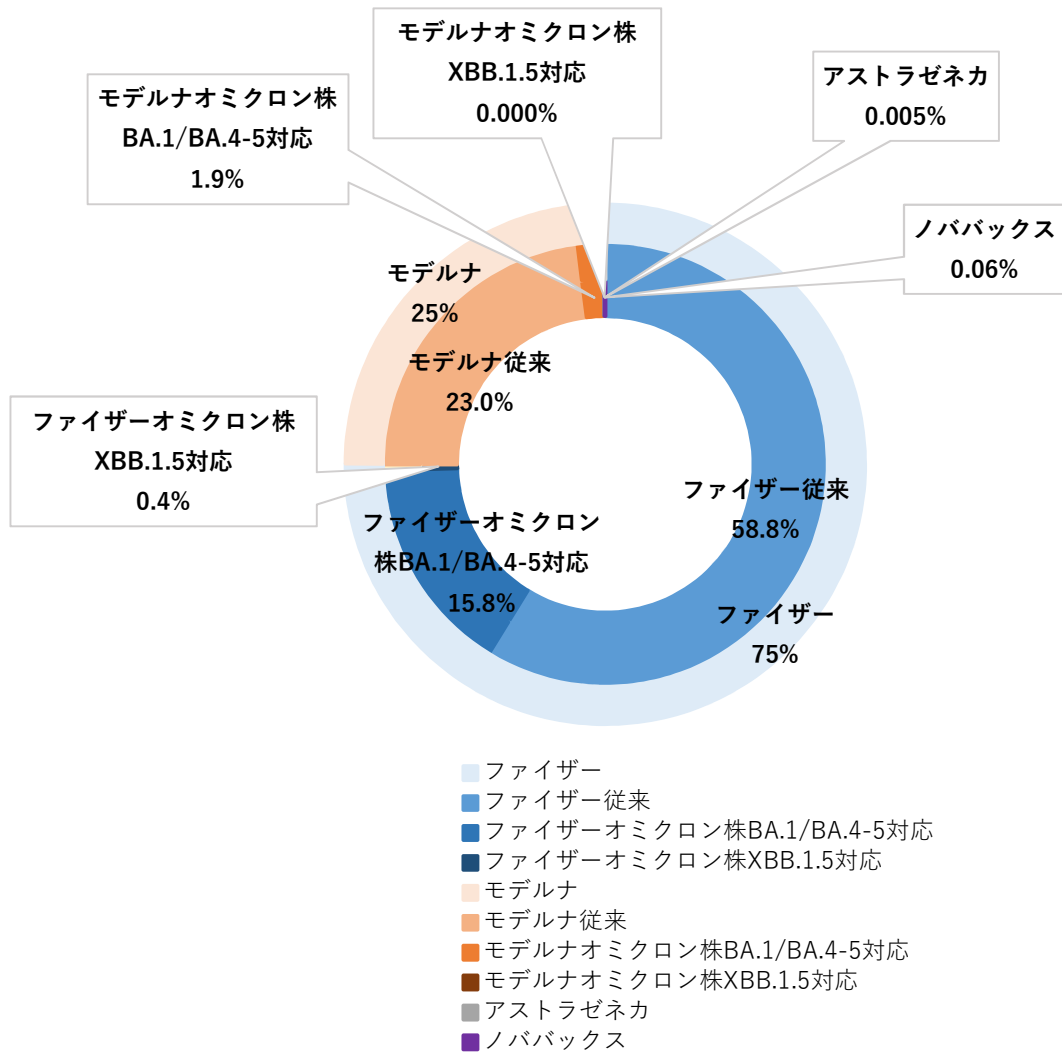
	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	計	割合
20歳未満	118,151	116,939	62,496	19,152	272	16	2	317,028	4.6%
20歳代	203,674	202,012	136,145	41,879	5,735	1,569	47	591,061	8.7%
30歳代	231,688	230,152	159,454	58,434	8,951	3,050	150	691,879	10.1%
40歳代	271,148	269,998	201,877	90,240	15,360	6,049	356	855,028	12.5%
50歳代	297,507	296,664	250,242	144,178	28,517	11,984	725	1,029,817	15.1%
60歳代	225,834	225,392	209,789	164,622	100,690	48,097	3,644	978,068	14.3%
70歳代	240,410	239,926	232,182	209,968	169,345	111,744	9,225	1,212,800	17.8%
80歳代	152,833	152,437	148,078	136,690	114,744	80,158	6,303	791,243	11.6%
90歳以上	37,084	36,934	35,890	33,222	27,886	19,247	844	191,107	2.8%
情報なし	53,074	51,300	32,029	17,143	7,090	1,154	20	161,810	2.4%
合計	1,831,403	1,821,754	1,468,182	915,528	478,590	283,068	21,316	6,819,841	100.0%

(2) 男女比（令和5年9月30日時点）



男性	3,142,979
女性	3,515,052
情報なし	161,810
合計	6,819,841

(3) 接種ワクチンの種別（令和5年9月30日時点）



ワクチン種別	総接種回数	割合
ファイザー従来	4,009,963	58.8%
ファイザーオミクロン株BA.1/BA.4-5対応	1,077,470	15.8%
ファイザーオミクロン株XBB.1.5対応	28,470	0.4%
モデルナ従来	1,568,874	23.0%
モデルナオミクロン株BA.1/BA.4-5対応	130,535	1.9%
モデルナオミクロン株XBB.1.5対応	4	0.000%
アストラゼネカ	355	0.005%
ノババックス	4,170	0.06%
合計	6,819,841	100%

